

ISSN 2186-0645

富山市埋蔵文化財調査報告62

富山市内遺跡発掘調査概要XII

おだけかいづか
—小竹貝塚—

2014

富山市教育委員会

ISSN 2186-0645

富山市埋蔵文化財調査報告62

富山市内遺跡発掘調査概要XII

おだけかいづか
—小竹貝塚—

2014

富山市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、個人住宅建築に先立ち平成 20 年度に実施した小竹貝塚の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は富山市教育委員会が実施した。費用については富山市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。
- 3 調査の期間、発掘面積、調査担当等は次のとおりである。

発掘調査 平成 21 年 2 月 2 日～平成 21 年 3 月 27 日 発掘面積 173.44m²
調査担当 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 主査学芸員 鹿島昌也
主任学芸員 小黒智久
同 嘱託 長谷部貢吾 宮崎琢也
出土品整理・報告書作成 平成 25 年 8 月 2 日～平成 26 年 3 月 31 日
担当 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 主査学芸員 鹿島昌也
同 嘱託 納屋内高史
- 4 本書の執筆は、埋蔵文化財センター職員の協力を得て、鹿島・納屋内・宮崎が行い、各々の責は文末に記した。
- 5 報告書作成にあたり、町田賢一氏よりご助言を賜った。記して謝意を表します。
- 6 出土品及び原図・写真類は、富山市教育委員会が保管している。
- 7 平成 20 年度に刊行した、富山市教育委員会 2009 「富山市内遺跡発掘調査概要 IV - 水橋上砂子坂遺跡・小竹貝塚」富山市埋蔵文化財調査報告 33 と本書との内容が異なる場合には、本書に掲載された内容をもって正式な報告とする。

凡　　例

本書の挿図・写真図版等の表示は次のとおりである。

- (1) 方位は真北、水平基準は海拔高である
- (2) 座標は公共座標（世界測地系第Ⅶ系）を使用した。
- (3) 造構の表記は次の記号を用いた。

S K : 土坑、P : ピット、S X : 谷地形、堅穴建物

目　　次

第Ⅰ章　調査の経過 · · · · ·	1	第Ⅳ章　総括 · · · · ·	27
参考文献			
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 · · · · ·	3	写真図版 · · · · ·	30
第Ⅲ章　調査の概要 · · · · ·	6	報告書抄録 · · · · ·	38



発掘調査区遠景（北から）



発掘調査区遠景（東から）



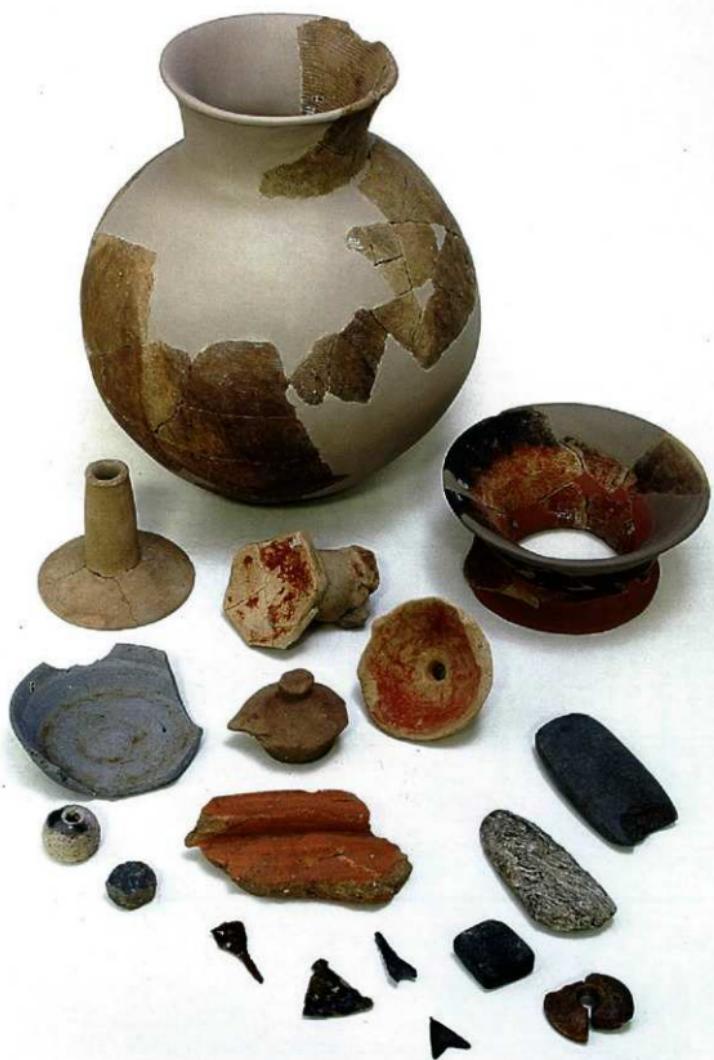
調査区完掘状況（上が南）



調査区完掘状況（東から）



谷地形遺物出土状況（X78, 580～78, 582・Y350～307付近、西から）



谷地形からの出土遺物

第Ⅰ章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

小竹貝塚は、富山市呉羽町北～高木地内に位置する縄文時代前期を主体とする貝塚遺跡である。貝塚の所在は、昭和 20 年代頃から知られており、過去には試掘調査・発掘調査が複数回実施されている。これらによって、小竹貝塚の貝層は東西 50 m、南北 150 m に広がり、日本海側最大規模とされている。昭和 33 年には高瀬保氏、昭和 39 年には岡崎卯一氏らの調査で縄文時代前期の貝塚であることが分かった。遺跡は昭和 40 年文化財保護委員会刊行『全国遺跡地図（富山県）』に登載され、昭和 47 年 3 月発行の『富山県遺跡地図』や平成 5 年 3 月発行『富山市遺跡地図（改訂版）』では埋蔵文化財包蔵地として周知されている。また、同時期に富山県教育委員会が実施した北陸新幹線建設に伴う分布調査で遺跡範囲はさらに拡張された。現在では、平成 25 年 3 月発行『富山市遺跡地図』（市 No. 2010096）に登載され、遺跡面積は約 53,000 m² である。

また、遺跡の中央を貫通する新鍛治川承水路での採集活動や富山考古学会員による貝層試料の分類作業、自然科学分析等によって遺跡の概要が明らかになってきている（山内ほか 1993）。

平成 20 年からの新鍛治川改修工事に伴う富山市教育委員会（以下市教委と略す）による立会調査などで、昭和 45 年に富山県教育委員会の調査で見つかった貝層を再確認し、県教育委員会の調査で頭部を欠く人骨が 1 体発掘されていたが、新たに 2 体の人骨を発掘した。

平成 21 年から 22 年にかけて県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所による北陸新幹線建設に先立ち 1,280 m² が発掘調査された。その結果、前期前葉～末葉にかけての最大厚 2 m を測る貝層が発掘され、91 体の埋葬人骨や 16 体のイヌ骨、堅穴建物や丸木舟を利用した作業足場などが発掘され、日本海側最大級の貝塚の実態が明らかになってきた（県財团 2014）。

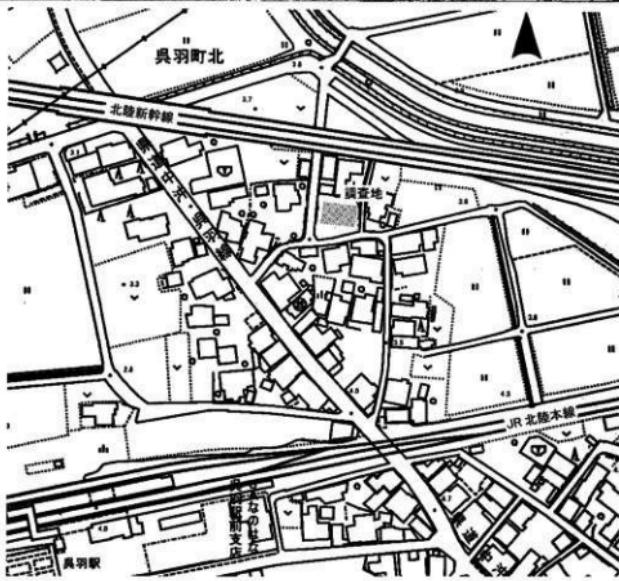
平成 20 年 7 月 24 日、北陸新幹線建設に伴う移転による個人住宅建設に先立ち、埋蔵文化財所在確認についての照会がなされた。建設予定地全域 387.34 m² が埋蔵文化財包蔵地に含まれていたため、同年 9 月 11 日に市教委による試掘調査を実施し、調査対象地全域に遺跡の所在を確認した。調査では縄文時代の溝、土坑、弥生時代の土坑、ピット等を検出し、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、石製品（凹石、磨製石斧）が出上した。

この調査結果に基づき、工事主体者と建設にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねた結果、宅地部分の地盤改良工事及び擁壁の掘削工事が遺構面に達することから、宅地部分と擁壁部分 173.44 m² について発掘調査を行うこととなった。

発掘作業は平成 21 年 2 月 2 日から 3 月 27 日まで行った。表土掘削は 2 月 2 ～ 3 日にバックホウを用いて行った。表土除去完了後の 2 月 4 日から人力による包含層掘削及び遺構検出作業を行い、その後遺構削除作業を開始した。

遺物整理・概要報告書作成作業は、現地調査と並行して平成 21 年 3 月 31 日まで行った。

平成 25 年度は、平成 20 年度に実施した現地発掘作業で出土した約 50 箱について出土品整理及び報告書作成作業を実施した。（鹿島）



第1図 調査位置図

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

小竹貝塚は、富山平野の中央を南北に走る呉羽山丘陵の北端に広がる長岡台地の裾部から平野に至る沖積地、標高3.5mに立地する。富山市街地からは北西へ約4kmの距離にある。現在は海岸線より約4km内陸に位置するものの、約6,000～5,000年前の縄文海進の際に平野部まで広がっていたとされる旧放生津潟の縁辺に貝塚が形成された。呉羽山丘陵・旧放生津潟一帯は、旧石器時代から近世まで200か所にものぼる遺跡が所在し、富山市域の約3分の1が集中する遺跡の宝庫でもある。

第2節 歴史的環境

縄文時代前期には、小竹貝塚の東約750mに、ほぼ同時期に形成されたとされる淡水産の貝を主とする蜑ヶ森貝塚が形成され、縄文時代前期の海進期には旧放生津潟が遺跡近辺まで入り込んでいたと推測される。中期には、長岡台地上に集落が多く出現し、中でも国史跡の北代遺跡は拠点的な集落で前葉から末までに約70棟以上の竪穴建物や数棟の掘立柱建物群が確認されている。北代遺跡の北西300mにある北代加茂下III遺跡では前葉から中葉に小規模な集落が形成され、北陸では初となる柱列が二重に巡る形態の掘立柱建物跡が確認された。後期から晩期にかけては、長岡台地の北寄りに遺跡が分布するようになり、後期には長岡杉林遺跡から単独で竪穴建物が検出され、晩期には北代遺跡で掘立柱建物や墓地とみられる土坑、粘土探掘坑が検出されている。長岡八町遺跡では掘立柱建物や大型の土偶がみつかっており、中核的な集落が形成されていたと推定される（富山市教委2004）。

弥生時代中期～古墳時代前期にかけては、海岸線に近い江代割遺跡・四方荒屋遺跡で大規模な集落が形成された。打出遺跡では、弥生時代終末期の焼失住居を含む集落がみつかっている。呉羽山丘陵北西の沖積地に所在する八町II遺跡では、古墳時代前期から中期にかけての集落跡が確認されている。一方、呉羽山丘陵にはほぼ全域に古墳群が所在しており、呉羽山丘陵北端には、近年の調査で百塚遺跡や百塚作古遺跡から弥生時代後期～古墳時代前期の墳墓・古墳群がみつかった。さらに初期の古墳群である杉坂古墳群や中期には前方後円墳である古沢塚山古墳が築かれ、後期においては番神山横穴墓群が確認されている。また、丘陵南西部には弥生時代の方形周溝群をはじめ、山陰地方との交流を示す四隅突出型墳丘墓を有する杉谷古墳群が築かれる（富山市教委2008）。

奈良時代から平安時代にかけ、長岡台地では墾田開発に伴う集落が一気に増加する。北代遺跡では、奈良時代を中心に竪穴建物や鍛冶工房等が検出され、呉羽小竹堤遺跡では奈良～平安期の大型掘立柱館建物をもつ集落に鍛冶工房が伴っており、農村集落的側面の強い遺跡が確認できる。一方で、北代遺跡に隣接する長岡杉林遺跡では、平安時代中期の祀堂と推測される建物が検出された。瓦塔、綠釉陶器（椀・火舎）、灰釉陶器（椀）など仏教的色彩の強い遺物が出土しており、仏堂をもつ中核的な開墾集落と推定されている。これらの背景として射水郡寒江郷との関連が注目される。

中世では八町II遺跡がある。鎌倉時代から室町時代にかけての集落跡からは掘立柱建物跡や井戸跡、畠跡などが確認されている。この八町地内を含む呉羽町、北代一帯は南北朝時代に京都下鴨社の神社領「寒江莊」に該当することから、莊園内の中核的な集落であったと推測される。また、現專龍寺を中心とした真言宗北代極楽庵寺の成立があり、周辺には数多くの中世石造物の分布が確認されている。

（宮崎）

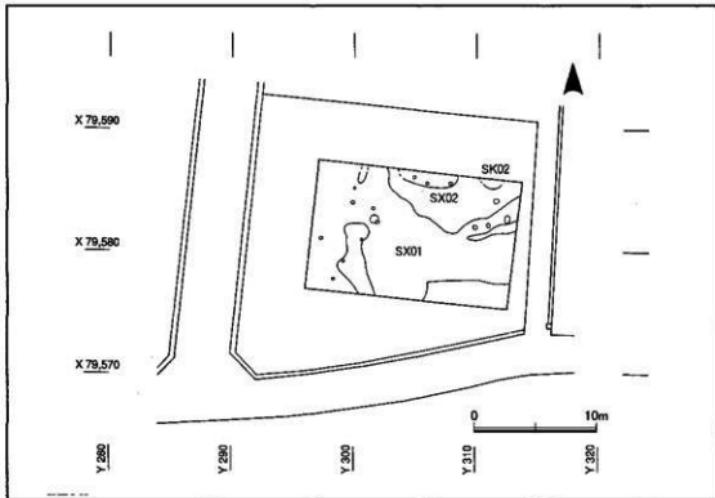


射水市

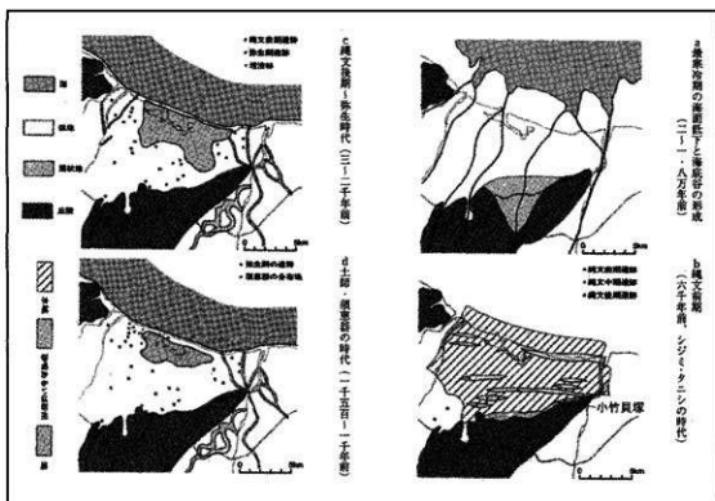


- 1 小竹貝塚 2 蛭ヶ森貝塚 3 鳥羽町北遺跡 4 北代中部Ⅲ遺跡 5 北代中部Ⅰ遺跡 6 高木西遺跡 7 高木中坪遺跡 8 鳥羽町坊ヶ口遺跡
 9 高木南遺跡 10 大塚南遺跡 11 大塚遺跡 12 奥羽本郷遺跡 13 奥羽野田遺跡 14 八町西B遺跡 15 八町西A遺跡 16 利波遺跡
 17 四方沖海岸遺跡 18 打出遺跡 19 四方西野新遺跡 20 四方北岸遺跡 21 江代割遺跡 22 四方荒屋遺跡 23 四方青戸割遺跡 24 今市遺跡
 25 寺前遺跡 26 百塚住吉D遺跡 27 八ヶ山A遺跡 28 八町下遺跡 29 八ヶ山B遺跡 30 八ヶ山C遺跡 31 百塚住吉遺跡 32 百塚遺跡
 33 ハニ山遺跡 34 富山港主前田家墓所 35 杉板古墳群 36 長慶寺古墳 37 史跡五百羅漢 38 長岡八町遺跡 39 北代加茂下里遺跡
 40 北代遺跡 41 北代東遺跡 42 長岡杉林遺跡 43 奥羽富田町遺跡 44 北代村巻V遺跡 45 横樂寺廣寺 46 北代中尾遺跡 47 荒畠町遺跡
 48 北代西山II遺跡 49 奥羽小竹塚遺跡 50 奥羽三ツ塚古墳 51 山谷I遺跡 52 山谷II遺跡 53 小竹遺跡 54 小竹平山窯跡

第2図 小竹貝塚と周辺の遺跡(1:30,000)



第3図 調査地位置図



第4図 射水平野の古地形変遷(藤井1964, 2000より一部加筆)

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 調査の方法

掘削作業と平行して遺構の計測・図化作業を実施した。平面図はトータルステーションによる計測を基本として1/20で作成し、必要に応じて1/10の微細図を併せて作成した。計測は測量機器（トータルステーション）を用いて図面記録を行い、公共座標（世界測地系）を使用した。写真撮影は必要に応じて隨時行い、白黒35mm、カラー35mmフィルムに記録した。平成21年3月19日にRCヘリによる全景写真を撮影した。

第2節 基本層序

基本層序は上からI層～II層は表土や宅地造成土、III層に旧耕作土が部分的に残存する。IV層～V層は遺物包含層で、VI層に北西方方向に傾斜する谷地形の覆土がみられ、この谷の埋土を掘り込んで、弥生時代後期以降の遺構が形成される。VII層は淡灰白色の地山である。

現地表面の標高は平均3.5mである。調査区内の谷地形の最深部の標高は1.89mを測る。

I層：表土・造成土（厚さ約20cm）

II層：造成土（厚さ約30～100cm）

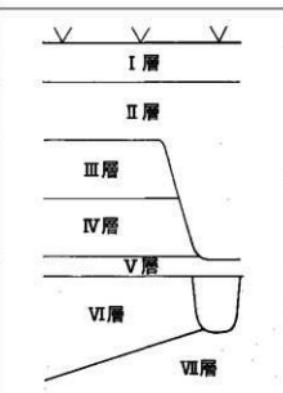
III層：旧耕作土（厚さ約10～30cm、暗灰色土）

IV層：遺物包含層（厚さ約30～35cm、暗褐色粘質土）

V層：遺物包含層（厚さ約10cm、暗灰褐色粘質土）

VI層：谷地形覆土（厚さ約30～50cm、黒褐色粘質土）

VII層：地山（淡灰白色粘質土）



第5図 基本層序

第3節 調査の概要

第1項 遺構 (第6・7図、カラー図版3、写真図版1)

遺構は、谷地形(SX01)、不明遺構1基、土坑5基、ピット26基が検出された。

SX01(谷地形) 調査区のほぼ全域に広がり東西方に延びる谷状の窪みを検出した。調査区東寄りは浅く(標高2.37m)、西に向かって傾斜し、調査区北西端(標高1.89m)で深く落ち込む。当初、この谷地形から北東方向に派生する溝(SD01)と調査区南西寄りにある土坑(SK01)として取り扱っていたが、調査の進捗によってSX01との新旧関係がないことが判明し、一連の遺構としてSX01に含めて取り扱うこととした。谷状の窪みは、浅いところで数cm、谷の最深部では50cmを測る。調査区東半部では、深さ20cm足らずの窪みにコンテナ箱にして約50箱もの遺物が出土した。縄文土器や石器、剥片、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼、八尾焼、越中瀬戸焼、木製遺物などあるが、大半は、弥生時代終末期～古墳時代初期の土器である。

SX02 (堅穴建物) 調査区北壁に接し、調査区外へ続く。東西軸 4.4 m、南北 1.2 m 以上を測る。肩部は緩やかに立ち上がり、覆土中から磨製石斧 (51) や剝片などが出土しているが、SX02 に伴う柱穴状の遺構 (P11) から図化できないが弥生土器の細片が 3 点出土した。概報（富山市教委 2009）で縄文時代前期の堅穴建物としたが、出土品を精査した結果、弥生時代の可能性が高くなった。

SK03 調査区西寄りに位置する。直径 0.7m、深さ 0.15m を測る不整円形を呈する土坑である。覆土中から図化できないが内面に刷毛目を有する弥生土器あるいは土師器の部体破片が出土した。南に寄って掘方が無く地山に打ち込まれるような木柱根が残存していた。周辺に対応する柱穴などが認められないことから、単独で立っていたか、何かを繋ぎ止めておくための杭のような可能性が高い。

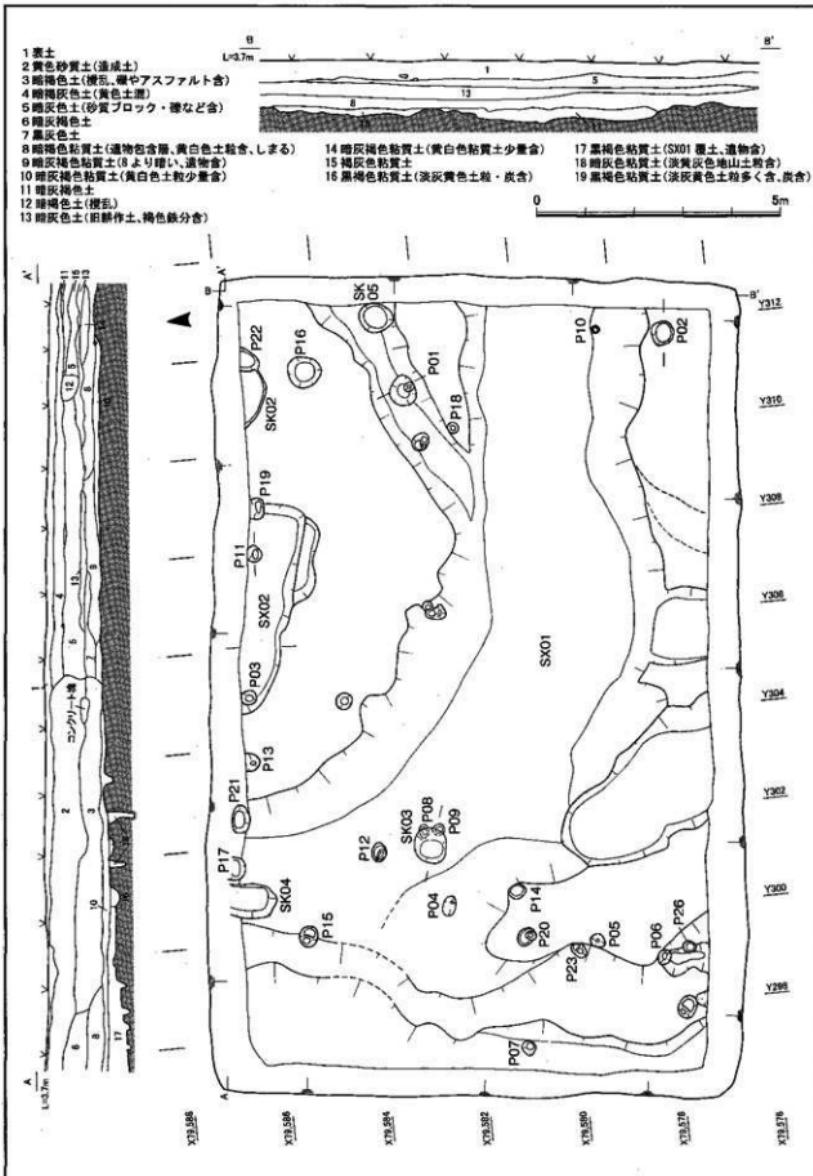
SK04 調査区北西西寄りに位置し、調査区外に延びる。覆土中から縄文土器片のみが 4 点出土したことから当該期の遺構と推測される。

P01 調査区東寄りに位置する。椭円形を呈し、覆土中から出土した弥生土器 (100) 片が約 2m 東に離れた SK05 付近から出土した土器片と接合した。他に弥生土器の破片が出土した。

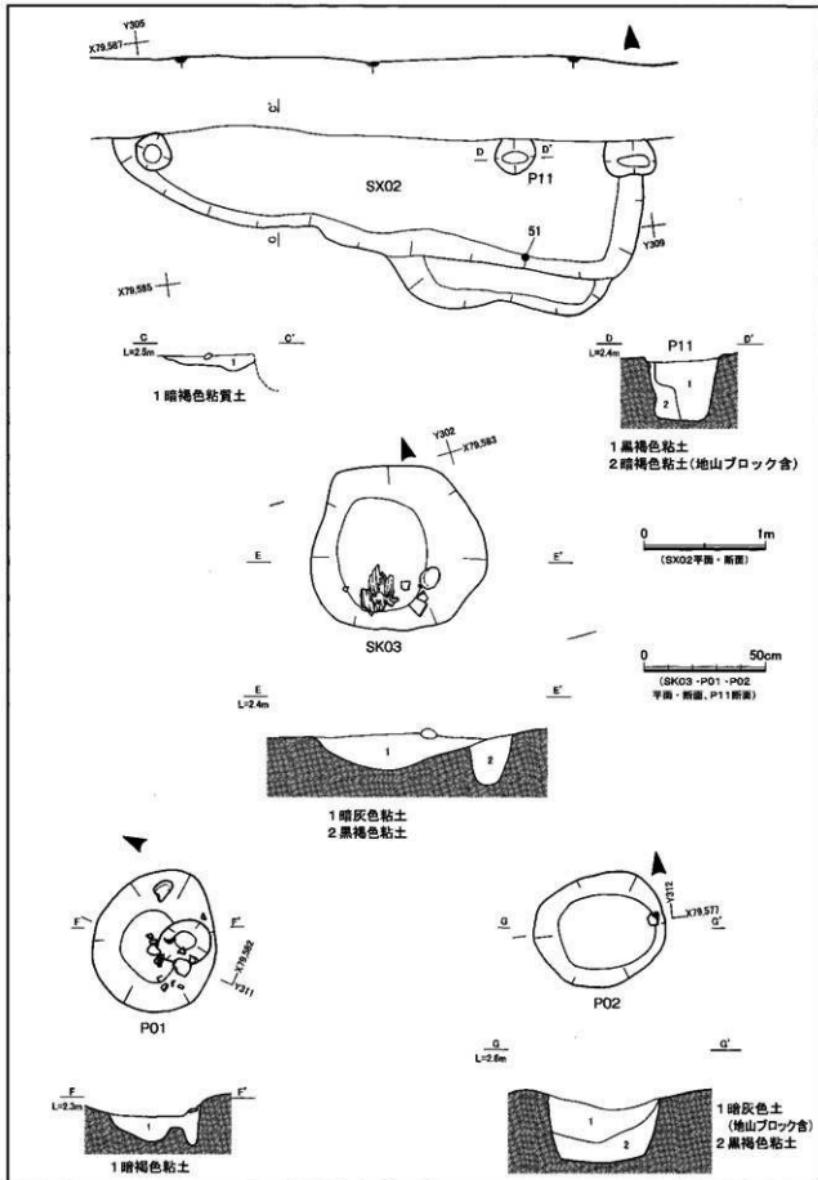
遺構	規模 (m)	深さ (m)	備考	遺構	規模 (m)	深さ (m)	備考
SK02	1.3 × (0.5)	0.11	弥生終末	P13	(径 0.35)	0.46	弥生終末
SK03	径 0.7	0.15	杭	P14	0.38 × 0.3	0.13	
SK04	(0.95) × 0.7	0.3	縄文前期	P15	0.41 × 0.36	0.32	
SK05	0.7 × 0.6	0.45		P16	径 0.65	0.24	縄文前期
P01	0.6 × 0.5	0.1	弥生終末	P17	0.45 × (0.25)	0.37	
P02	0.5 × 0.4	0.25		P18	径 0.22	0.3	
P03	径 0.3	0.24		P19	0.43 × (0.17)	0.2	
P04	(径 0.5)	0.25	弥生終末	P20	0.4 × 0.3	0.28	
P05	0.4 × 0.28	0.34		P21	0.56 × 0.35	0.6	
P06	0.5 × 0.35	0.08		P22	(0.5) × 0.45	0.15	
P07	径 0.27	0.5		P23	0.35 × 0.25	0.35	
P08	0.25 × 0.2	0.23		P24	0.5 × 0.4	0.3	
P09	0.25 × 0.22	0.23		P25	径 0.3	0.44	
P10	径 0.15	0.25	根石・杭	P26	0.35 × (0.23)	0.22	
P11	0.34 × (0.3)	0.25		P27	0.38 × 0.3	0.25	
P12	0.4 × 0.31	0.25		SX02	4.4 × (1.2)	0.11	弥生終末

(表中の括弧は調査区外へ続くもの)

表 1 遺構観察表

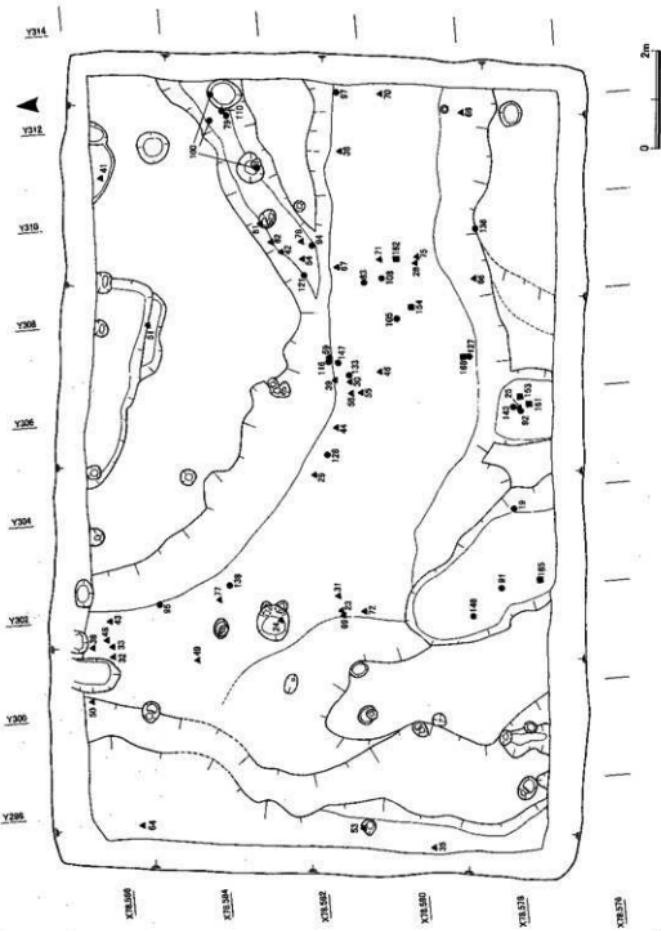


第6図 遺構平面図、調査区東壁・北壁土層断面図(1:100)



第7図 堅穴建物(SX02), 土坑(SK03), ピット(P01, P02)

第8図 遺物分布状況(▲:縄文時代 ●:弥生~古墳時代 ■:古代以降)



第2項 遺物 (第9～19図 写真図版2～9)

1. 繩文時代の遺物

縄文土器 (第9図、写真図版2)

前期後葉の蜆ヶ森I式を中心に、前期後半から後期末の土器が少量出土している。

1、11は、前期後半の刈羽式併行と考えられる。1は、外面に平行沈線による格子目文を施す。11は、外面に縄文を施した上で、深い集合沈線を横方向に施す。

2～9は、前期後葉の蜆ヶ森I式の深鉢である。口縁部に粘土紐を貼り付けることにより、2～3本の隆線を作出する。2、3は、隆線の断面形が蒲鉾状で、隆線間の縄文が明瞭に見られることから、小島などの編年でいう古段階に当たる(小島2008)。4～9は、隆線の断面形が三角形を呈し、隆線間の縄文が不鮮明、もしくは無文であることから、小島などの編年でいう新段階に当たる。また、6には表面に種子圧痕と思われる痕跡が見られる。

10は、外面に集合沈線で曲線を用いた文様を施す。文様の形状から、越坂の報告(越坂1986)で諸磯B・C式に類似の土器とされているものと考えられる。また、表面に種子圧痕と思われる痕跡が見られる。12は、無文地の外面に半裁竹管を用いた爪形文を横方向に施す。刈羽式や諸磯B式併行と考えられる。

13、14は、縄文前期の平口縁の粗製深鉢である。輪積みにより器形を作出した後、更に口縁部内外に粘土を貼り付けている。そしてその上で、外面に羽状縄文を施す。製作技法や胎土、復原口径が近似することから、同一個体の可能性が高い。15は、型式不明だが、縄文前期の土器である。外面に羽状状文が施されている。

16～20は、波状口縁の精製深鉢である。形状や出土位置等から同一個体と考えられる。外面を丁寧にナデ調整した上で、口縁部に沈線を用いて施す。口縁端部及び文様帶下縁は幅5mm程度の縄文帯で縁取られる。文様等の特徴から、後期末の八日市新保式の可能性が高い。

21は、平口縁の粗製深鉢である。口縁部がやや内傾し、外面と口唇部に縄文を施す。前期または中期と考えられる。

22は、型式不明の深鉢底部である。平底で、外面に縄文を施す。胎土及び焼成状態から、前期と考えられる。

石器 (第10～15図、写真図版3、4)

磨石を中心、石鏃、

磨製石斧、凹石、敲石な

どが出土している(表1)。

また、これ以外に石器石

材と思われる礫やアスフ

アルトの塊などが出土し
ている。

23～34は、石鏃である。

出土した石鏃は、ほとん

どが凹基無茎鏃であり、

それ以外の形態はごくわ
ずかである。凹基無茎鏃

は、基部の抉り込みが浅

	P12	P13	P14	S001	SK01	SK02	SK03	SK04	SK05	SP01	SP02	SP04	SP19	SX01	SX02	気合産	總計
石器				1	1									22	1	25	
石器未定品														2		2	
尖頭器														3		3	
石器														4		4	
石器														3	2	6	
スクエイバー類						1											
磨製石器														4		4	
磨製石斧														3		3	
磨製石斧				1	1	1								26		26	
磨製石斧未定品														1		1	
打丸+磨打石器									1								1
打丸石器														4	1	5	
磨打石器														2		2	
磨石					1		1	1	1					47	11	62	
凹石														8	1	6	15
敲石														18	4	22	
石器						1								2		1	4
敲石														18		18	
敲石														1		1	
石器														2	1	3	
石器														7		7	
玉類(球状瓦砾以外)														7		7	
球状瓦砾																	
石器														11	1	2	14
石器														423	1	31	460
石器														15	1	18	
不明														83	0	94	

表1 出土石器集計表

いものと深いもの、中央部が括れるものと括れないものがある。使用石材は、無斑晶質安山岩が最多で、横山真脇石に類似する玉髓も多く見られる。長さ 20 ~ 30mm 前後、重さ 0.5 ~ 1.0g のものが多いが、32 のようにやや大型で厚みのあるものも存在する。32 は石錐の可能性もある。また、33、34 は、平基鐵であるが、基部が窄まる。

35 ~ 37 は、尖頭器である。35 は、玉髓（メノウ）製で、木葉形を呈する。36 は、碧玉（鉄石英）製で、木葉形を呈するが、側縁部などの調整がやや粗く、何らかの刺突具の未製品の可能性が考えられる。37 は、無斑晶質安山岩製で、二等辺三角形を呈し、やや小型である。

38、39 は石錐である。出土した石錐には、つまみ状の頭部を持ち、長い錐部を持つものと、剥片の一端に加工調整を施し、短い錐部を作り出したものが見られる。使用石材は、38・39 のみ玉髓で、他は無斑晶質安山岩である。

40 ~ 44 は、石匙である。出土した石匙は、すべて横型で、特に 40、41 は、整った三角形を呈している。使用石材は、40、41 は玉髓、42 はチャート、43・44 は無斑晶質安山岩で、他に無斑晶質安山岩製のものが 1 点出土している。

45 ~ 53 は、磨製石斧である。出土したもののほとんどは、蛇紋岩類¹⁾を用いた定角式磨製石斧である。完形のものは少ないが、48 ~ 53 のような大型で太身のもの他、47 のような細身のもの、45、46 のようなミニチュア品といえるものまで様々な大きさのものがある。また、敲石や凹石に転用されているものが多数見られる。

54 ~ 56 は、石錐である。円礫の長軸端を打欠いた打欠石錐が多くを占めるが、56 のように、縄欠け部を敲打により作出するものも少数ある。300 ~ 600g をはかる大型のものがほとんどである。花崗岩や凝灰岩などを用いているものが多く、また、磨石や砥石、小型の石皿などを転用したもののが多數見られる。

57 は、凝灰岩製の石皿である。出土した石皿は、凝灰岩や砂岩を用いているものが多い。

58 ~ 64 は、磨石、凹石、敲石である。出土したこれらの石器には、砂岩や凝灰岩など、軟質で粒子の粗い石材を用いたものが多いが、敲石として用いられているものには、蛇紋岩類を用いているものも見られる。また、これら 3 つの器種が複合しているものが多く見られる。58 は磨石と凹石、59 ~ 61 は磨石と敲石、62 は磨石と凹石、敲石が複合している。63、64 は、敲石である。64 は、敲面が痘瘻状を呈しており、石器製作用のハンマーとして用いられた可能性が高い。

65、66 は石棒である。出土した石棒は、両端部が残存しているものではなく、正確な形が分かるものはない。ほとんどが凝灰岩製である。65 は被熱している。

67 は、安山岩製の砥石である。表裏側面に平行する研磨痕が見られ、表面は緩やかな溝状に溝んでいる。

68 は、砂岩製の玉砥石である。表裏両面に、幅 5mm 程度の断面半円形の溝が見られる。

69 ~ 74 は、玉である。69、72、73 は、滑石製の玦状耳飾、70 は滑石製の管玉状のものの破片を更に正として再利用したものである。71 は、扁平な四角柱状を呈し、上下両面から穿孔している。蛇紋岩類を用いている。74 は、玦状耳飾である。滑石製で、円形を呈する。被熱している可能性がある。

75 は、碧玉（鉄石英）の原石である。多数の剥離痕がみられるが、縁辺は磨滅している。76 は、頁岩製の剥片である。77 は石核である。石材は、横山真脇石に類似するモルタルである。 (納屋内)

1) これまで蛇紋岩とされてきた石材に関しては、近年、蛇紋岩のはかに透閃石岩が含まれることが指摘されている（中村 2013）。しかし、両岩石の肉眼での判別は難しく、詳細な分析も行うことができなかつたため、今回は蛇紋岩類として一括した。

2. 弥生～古墳時代の遺物（第16～18図 写真図版5～8）

78～98は弥生土器あるいは古墳時代土師器の壺形土器・壺形土器の口縁部である。観察表では、弥生土器に区分したが、多くはいわゆる白江式期に属するとみられる。外面に煤が付着するものもあり、実際の煮炊きに使用されたものである。78は口縁が有段状になる。79～92は「く」字状に口縁部を外反させる。79～83・85・86は端部を尖らせ外側に面をとる。87～90・92は端部を丸くおさめる。93・94は受口状口縁の壺形土器あるいは壺形土器である。95～98は有段口縁壺の口縁部で、95～97は口縁が外反気味に開く。97は内外面に赤彩が施され、端部付近に被熱による黒色化がみられる。99は直口壺である。100は広口の壺形土器である。胴部最大径は27.5cmを測る。101は壺形土器の肩部である。102～114は弥生土器あるいは古墳時代土師器の壺形土器あるいは壺形土器の底部である。102は台付甕の底部である。105の底部は幅の広い輪状になる。115～117は古墳時代土師器の小型壺である。いずれも有段口縁状を呈し、115は外反した端部に面をとる。内外面赤彩されたものもある（写真のみ）。118は鉢の口縁部である。119・120は小壺の台部である。121～127は蓋形土器である。121・122は返しが付く。弥生時代終末期～古墳時代初頭とみられる。128～148は高杯形土器あるいは器台形土器である。赤彩されるものが目立つ。128は口縁端部や外面に刻み目を施す。豊田大塚・中吉原遺跡出土の器台に類例がある（富山市教委2013a）。器台の杯部が受口状になるもの（130・133）と皿状になるもの（132）がある。弥生時代終末～古墳時代初頭とみられる。観察表では弥生土器と土師器を分けてみた。

3. 古代以降の遺物（第19図 写真図版8）

149～156は須恵器である。149～151は杯B蓋である。149は口縁端部が肥厚して丸くおさめる。150の口縁端部を垂下させ外側に面を持つ。150・151は頂部付近にロクロ撫で後、回転ヘラ削りを施す。152・153は杯B身である。152は底高台貼り付け痕が明瞭に残り、底部外面へラ切り後未調整である。153は底部外面をへラ切り後ナデで仕上げる。154は杯Aである。底部外面中央付近は回転へラ切り後未調整である。156は壺の胴部である。須恵器は8世紀後半～9世紀初頭とみられる。157～161は珠洲焼である。157は甕の肩部である。外面に平行叩打痕が残る。158は壺の肩部とみられる。外面に綾杉状に叩打し、体部を多面体状にしたものである。159は甕の胴部である、160は片口鉢の口縁部である。端面を平直に仕上げる。吉岡編年Ⅲ期（吉岡1994）。161は片口鉢の破片を直径約3cmの円形に加工し、双六か囲碁の碁石として転用されたものである。162は八尾焼の甕口縁部とみられる。口縁部が受け口に内湾して立ち上がり、口が狭い壺状になる。酒井分類の甕B（酒井1990）。163・164は越中瀬戸である。

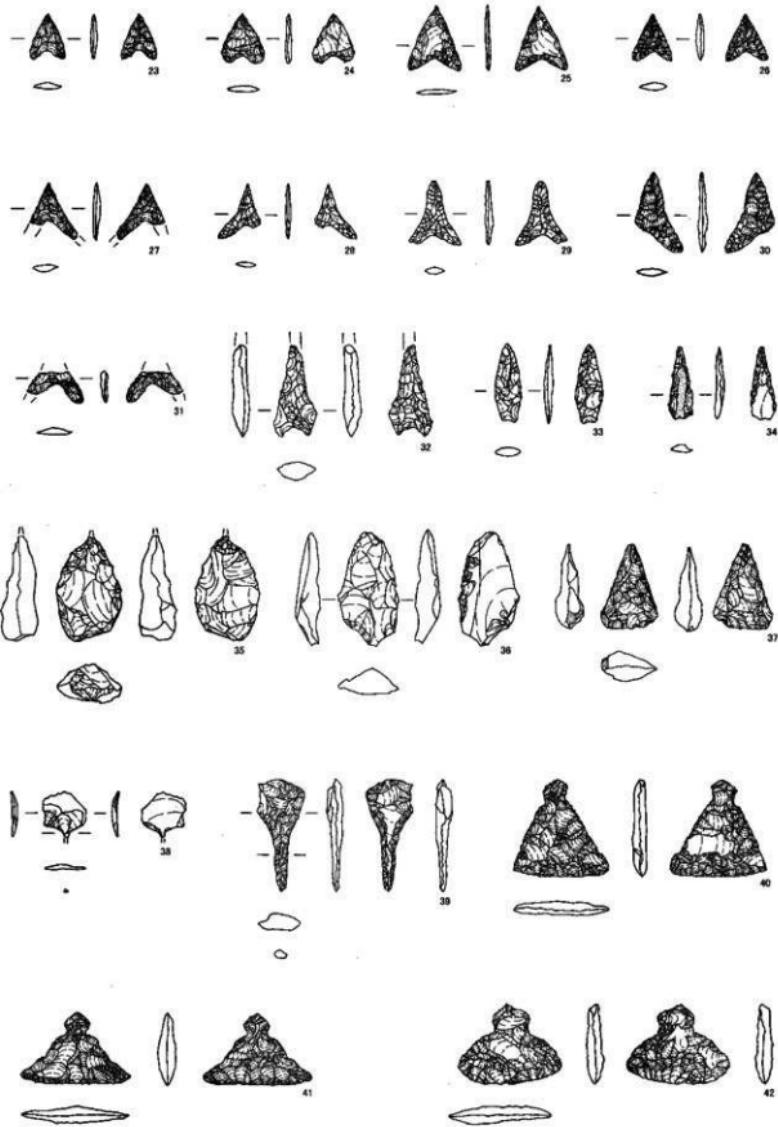
4. その他の遺物（第19図 写真図版8）

165は土師質の紡錘車である。166は泥岩製の硯あるいは砥石、167は粘板岩製の砥石である。168は金属製品の切羽である。長さ3.6cm、最大幅1.8cmを測る。長さ1.8cm、幅0.8cmの孔があけられる。ほかに、モモあるいは梅の種子（核）とみられるものが23点、不明種子が1点ある。一方、加工された木製遺物も複数出土したが腐食が進んでおり、取り上げの際に原形を保つことができないものがほとんどで、図化できていない。大足のような形状をした板状木製品や薬打ちの形状をした木製品などもみられた（富山市教委2009 図版15）。

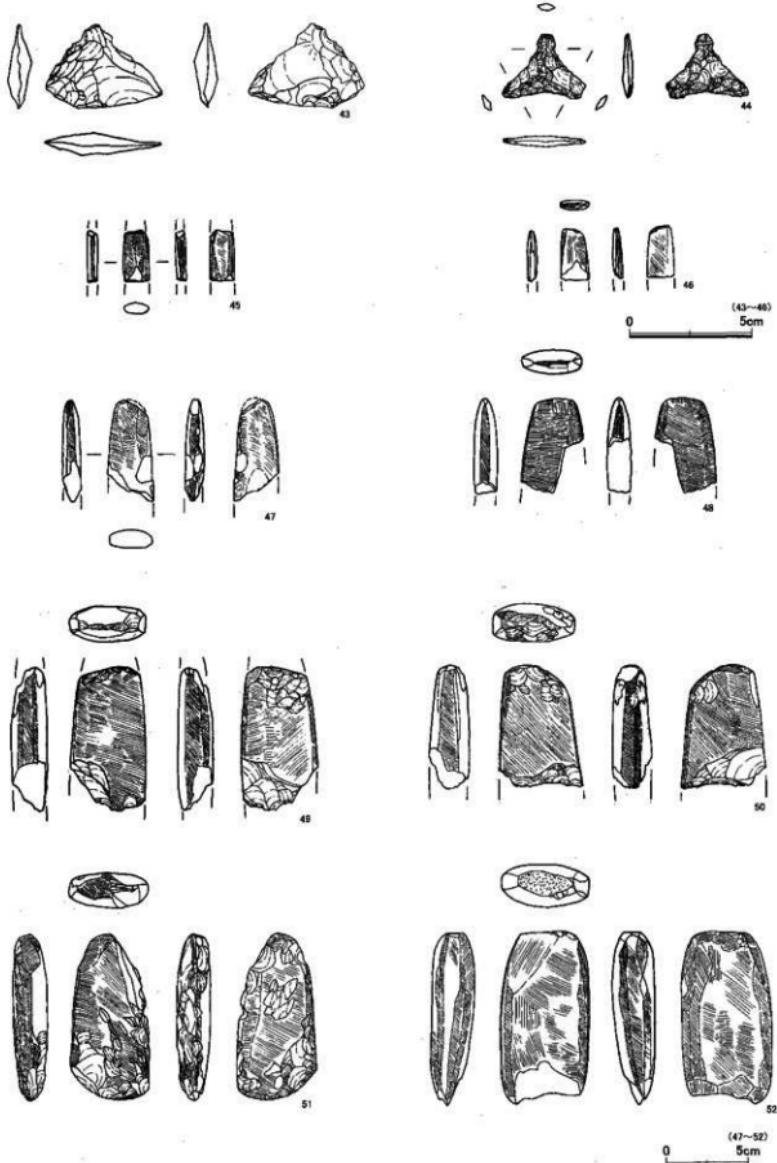
（鹿島）



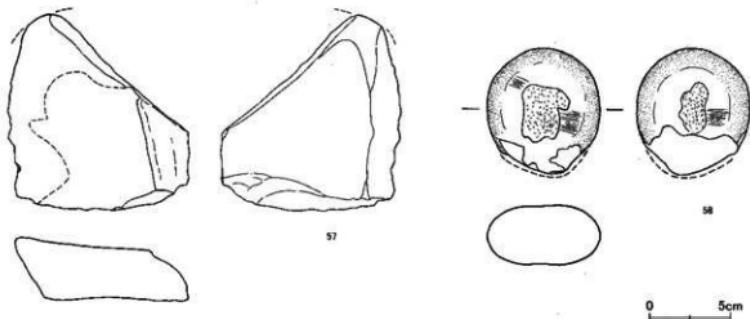
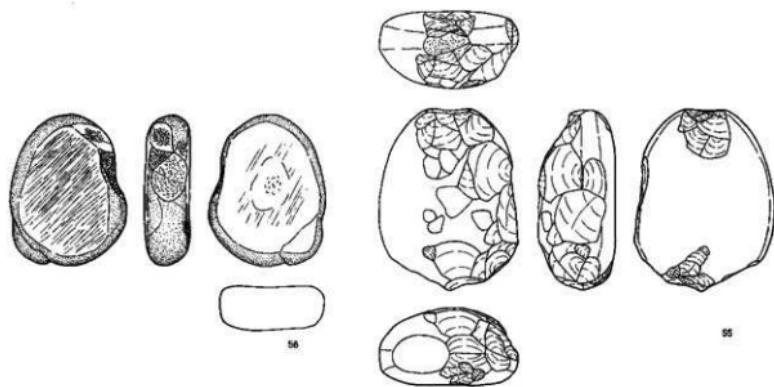
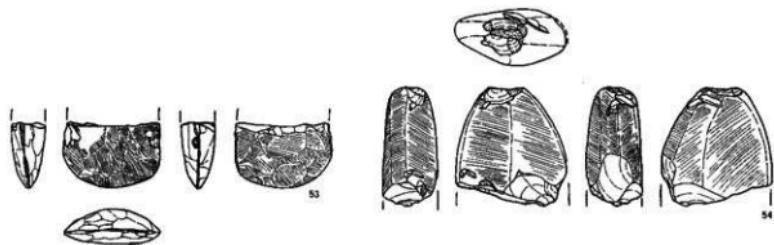
第9図 縄文土器 実測図



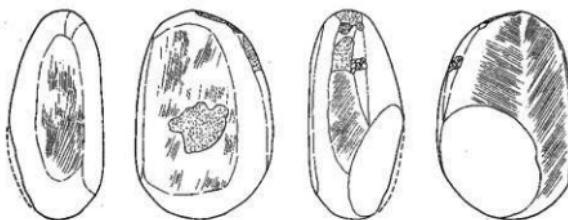
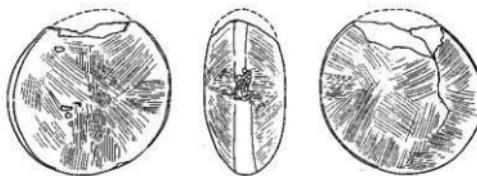
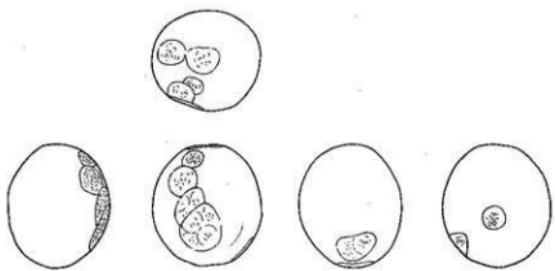
第10図 石器 実測図(1)



第11図 石器 実測図(2)



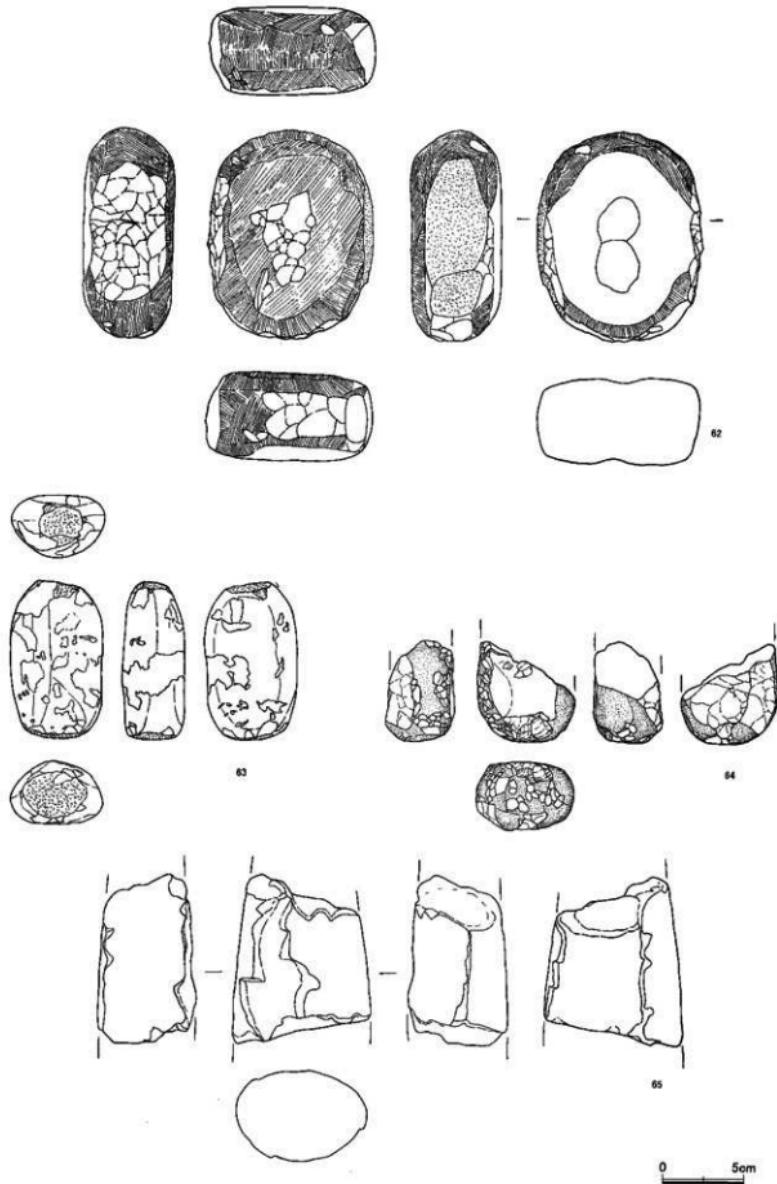
第12図 石器 実測図(3)



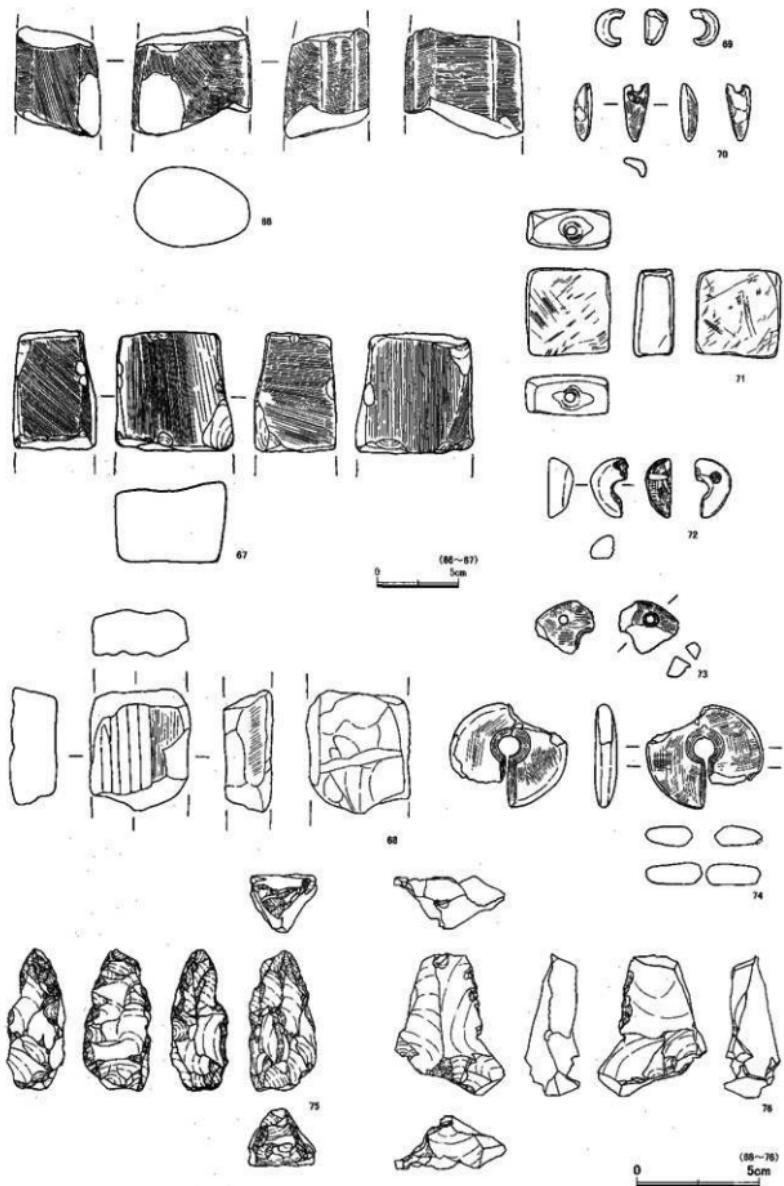
0 5cm



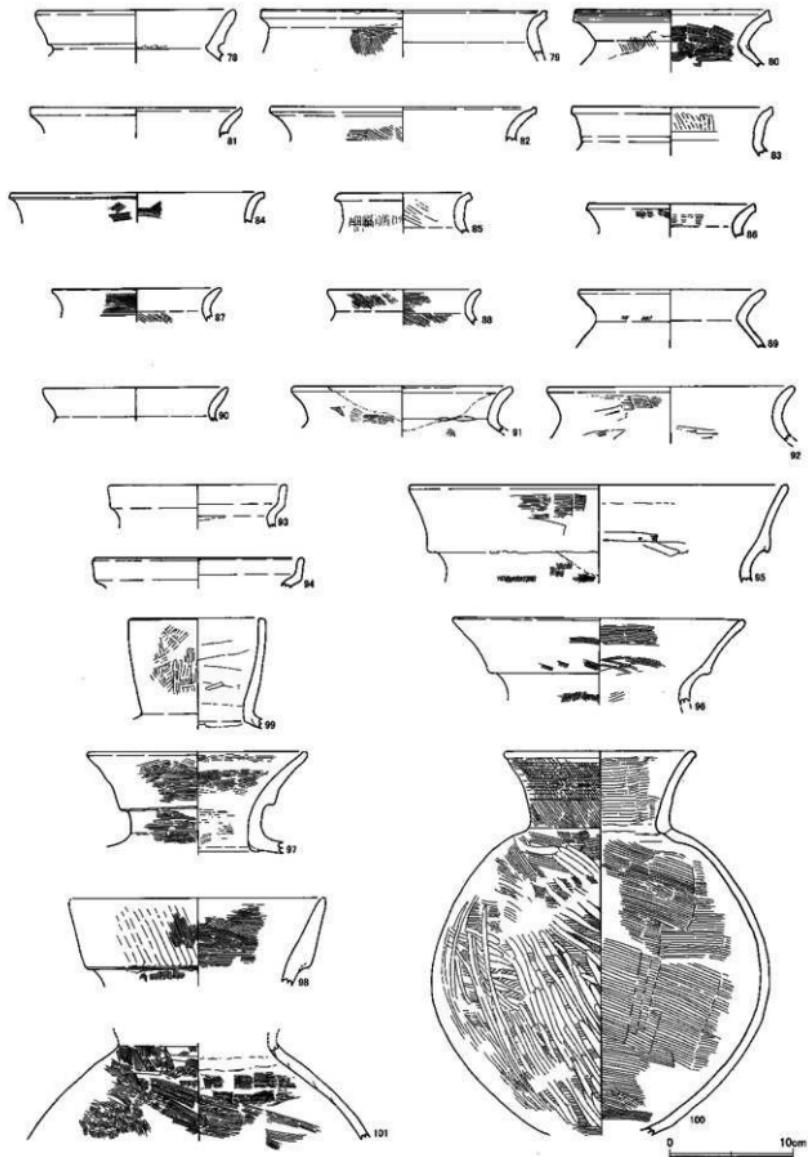
第13図 石器 実測図(4)



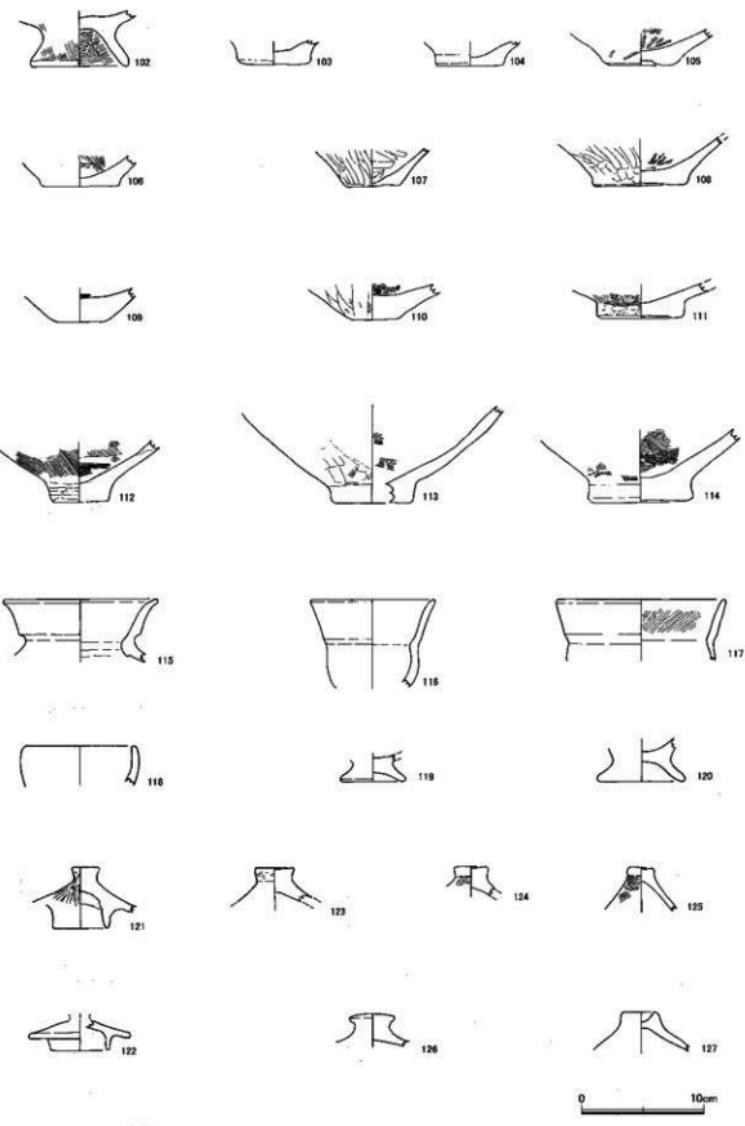
第14図 石器 実測図(5)



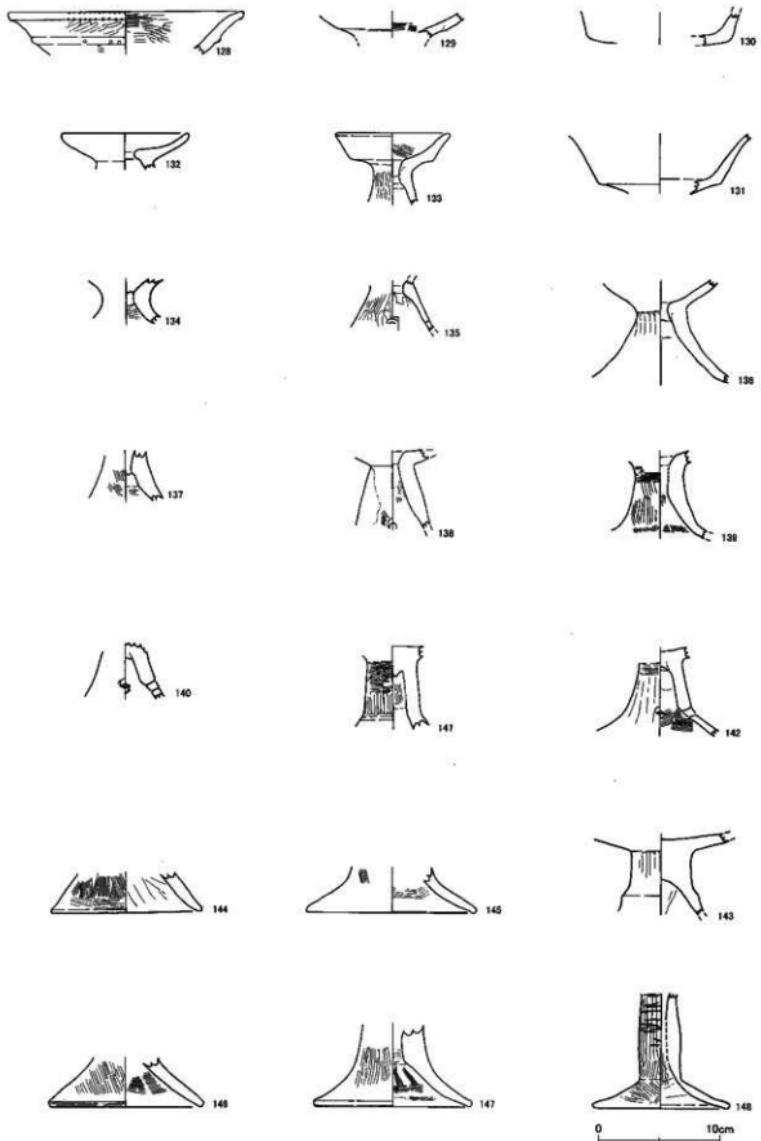
第15図 石器 実測図(6)



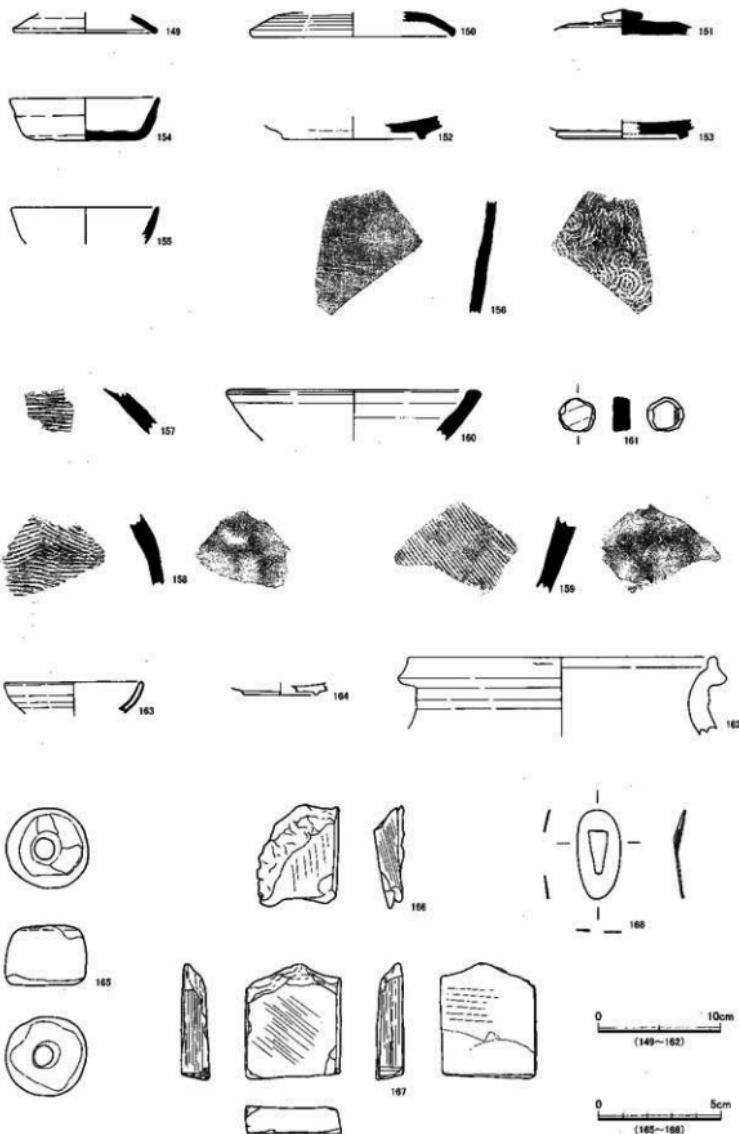
第16図 弥生土器・土師器 実測図



第17図 弥生土器・土師器 実測図



第18図 弥生土器・土師器 実測図



第19図 古代～近世の土器・陶磁器、土製品、石製品、金属製品

番号	遺構	地区	層位	断面	剖面	高さ(m)	底面	斜面	存率	色調	備考		
							山形	圓柱	斜面				
3	SX01	b区X58697301	圓文土器	圓錐	(3.0)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:にじみ黄緑	丸型		
2	引合塔	No.21	圓文土器	圓錐	(4.5)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
3	引合塔	T58697292	圓文土器	圓錐	(24.6)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
4	SX01	b区X58697299	圓文土器	圓錐	(2.9)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
5	SX01	b区X58697300	圓文土器	圓錐	(2.6)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
6	SX01	b区X58697300	圓文土器	圓錐	(3.9)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
7	引合塔	No.22	圓文土器	圓錐	(4.8)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
8	SX01	b区X58697298	圓文土器	圓錐	(4.2)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
9	武藏	T58697297	圓文土器	圓錐	(3.9)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
10	SX01	b区X58697300	圓文土器	圓錐	(3.2)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
11	X58697297	圓文土器	圓錐	(3.2)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型			
12	SX01	b区X58697300	圓文土器	圓錐	(3.8)	5%未満	10%未満	10%未満	20%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
13	SX01	b区X58697298	圓文土器	圓錐	(33.7)	6.5	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
14	SX01	b区X58697297	圓文土器	圓錐	(33.7)	12.8	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
15	SX01	b区X58697300	圓文土器	圓錐	(5.1)	10%	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型				
16	SX01	b区X58697299	圓文土器	圓錐	(26.0)	5.0	10%	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型			
17	X58697297	圓文土器	圓錐	(4.7)	5%	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
18	X58697298	圓文土器	圓錐	(4.1)	10%	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		
19	SX01	b区X58697299	圓文土器	圓錐	(3.6)	5%	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	
20	SX01	b区X58697300	圓文土器	圓錐	(4.1)	10%	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	
21	X58697297	圓文土器	圓錐	(19.0)	4.6	5%	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	
22	X58697297	圓文土器	圓錐	(4.1)	5.0	30%	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型	10%未満	内:にじみ黄緑 外:セミU式古墳形	丸型		

表2 遺物観察表（繩文土器）

番号	遺構	地区	層位	種類	石材	石材	断面	底面	斜面	存率	備考	
23	SX01	b区X58697301	石器	石器	共認岩(下白山)	灰岩	10%未満	内:6.5 外:6.5	内:6.5 外:6.5	0%	同様な表面	
24	SX02	b区X58697301	石器	石器	共認岩(下白山)	灰岩	20.0	18.0 内:5.0 外:5.0	5.0 内:2.0 外:2.0	1.0	同様な表面	
25	SX01	b区X58697301	石器	石器	共認岩(下白山)	灰岩	14.0	14.0 内:4.0 外:4.0	4.0 内:1.0 外:1.0	0.7	同様な表面	
26	SX01	b区X58697307	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	29.0	29.0 内:9.0 外:9.0	9.0 内:3.0 外:3.0	0.6	同様な表面	
27	SX01	b区X58697308	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	22.0	22.0 内:7.0 外:7.0	7.0 内:2.0 外:2.0	0.4	同様な表面	
28	SX01	b区X58697309	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	20.0	22.0 内:7.0 外:7.0	7.0 内:2.0 外:2.0	1.0	同様な表面	
29	SX01	b区X58697306	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	33.5	26.0 内:8.0 外:8.0	4.0 内:1.0 外:1.0	0.6	同様な表面	
30	SX01	b区X58697302	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	18.0	23.0 内:7.0 外:7.0	3.0 内:1.0 外:1.0	0.6	同様な表面	
31	SX01	b区X58697302	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	32.1	21.0 内:7.0 外:7.0	3.5 内:1.0 外:1.0	1.2	同様な表面	
32	SX01	b区X58697308	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	30.0	10.5 内:3.0 外:3.0	3.0 内:1.0 外:1.0	1.0	同様な表面	
33	SX01	b区X58697310	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	42.5	26.0 内:8.0 外:8.0	16.0 内:4.0 外:4.0	1.0	同様な表面	
34	SX01	b区X58697306	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	46.5	23.0 内:7.0 外:7.0	16.0 内:4.0 外:4.0	1.0	同様な表面	
35	SX01	b区X58697308	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	34.5	25.0 内:7.0 外:7.0	11.5 内:3.0 外:3.0	0.6	同様な表面	
36	SX01	b区X58697308	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	32.1	21.0 内:7.0 外:7.0	10.5 内:3.0 外:3.0	1.0	同様な表面	
37	SX01	b区X58697309	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	45.5	18.0 内:5.0 外:5.0	7.5 内:2.0 外:2.0	2.0	同様な表面	
38	SX01	b区X58697309	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	48.0	28.0 内:7.0 外:7.0	6.5 内:2.0 外:2.0	0.8	同様な表面	
39	SX02	東京ベイ T-36857311	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	29.5	44.5 内:11.0 外:11.0	7.5 内:2.0 外:2.0	5.0	同様な表面	
40	SX01	b区X58697309	石器	石器	玉解(横川不動山)	砂岩	33.3	42.1 内:11.0 外:11.0	32.4 内:8.0 外:8.0	7.0	同様な表面	
41	SX01	b区X58697309	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	34.0	47.0 内:12.0 外:12.0	9.5 内:3.0 外:3.0	10.0	同様な表面	
42	SX01	b区X58697309	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	36.5	45.0 内:12.0 外:12.0	9.5 内:3.0 外:3.0	10.0	同様な表面	
43	SX01	b区X58697309	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	38.0	45.5 内:12.5 外:12.5	9.5 内:3.0 外:3.0	10.0	同様な表面	
44	SX01	b区X58697309	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	39.5	46.0 内:13.0 外:13.0	9.5 内:3.0 外:3.0	10.0	同様な表面	
45	SX01	b区X58697309	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	43.4	53.0 内:15.0 外:15.0	9.5 内:3.0 外:3.0	10.0	同様な表面	
46	SX01	b区X58697309	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	62.0	58.0 内:18.0 外:18.0	12.0 内:3.0 外:3.0	26.0	同様な表面	
47	SX01	b区X58697307	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	66.0	57.0 内:17.0 外:17.0	14.5 内:3.0 外:3.0	33.0	同様な表面	
48	SX01	b区X58697302	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	88.0	68.0 内:20.0 外:20.0	21.5 内:5.0 外:5.0	141.0	同様な表面	
49	SX01	b区X58697308	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	78.0	54.0 内:15.0 外:15.0	24.5 内:5.0 外:5.0	138.0	同様な表面	
50	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	81.0	62.0 内:15.0 外:15.0	21.0 内:5.0 外:5.0	134.0	同様な表面	
51	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	101.0	84.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	225.0	同様な表面	
52	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	102.0	85.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	226.0	同様な表面	
53	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	111.0	85.0 内:20.0 外:20.0	41.0 内:5.0 外:5.0	266.0	同様な表面	
54	SX01	b区X58697304	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	92.5	71.2 内:17.0 外:17.0	28.0 内:5.0 外:5.0	268.0	同様な表面	
55	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	118.0	92.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	276.0	同様な表面	
56	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	123.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	278.0	同様な表面	
57	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	124.0	95.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	279.0	同様な表面	
58	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	125.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	280.0	同様な表面	
59	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	126.0	95.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	281.0	同様な表面	
60	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	127.0	95.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	282.0	同様な表面	
61	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	128.0	95.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	283.0	同様な表面	
62	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	129.0	95.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	284.0	同様な表面	
63	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	130.0	95.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	285.0	同様な表面	
64	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	131.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	286.0	同様な表面	
65	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	132.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	287.0	同様な表面	
66	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	133.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	288.0	同様な表面	
67	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	134.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	289.0	同様な表面	
68	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	135.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	290.0	同様な表面	
69	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	136.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	291.0	同様な表面	
70	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	137.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	292.0	同様な表面	
71	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	138.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	293.0	同様な表面	
72	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	139.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	294.0	同様な表面	
73	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	140.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	295.0	同様な表面	
74	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	141.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	296.0	同様な表面	
75	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	142.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	297.0	同様な表面	
76	SX01	b区X58697305	石器	石器	御前富貴岩(白山)	砂岩	143.0	94.0 内:20.0 外:20.0	25.0 内:5.0 外:5.0	298.0	同様な表面	
77	SX01	b区X5										

番号	遺構	遺物(図版No.)	種類	器用	器形	主部寸法	周縁寸法	底面寸法	底面形状	底面断面	色調		備考
											内壁	外壁	
79	SMB1	XMB71296	弥生土器	甕	(16.0)	(14.5)					10786/3	にぼい・黄褐色	有底口縁、外曲に底付唇
79	SMB1	11区No.619	弥生土器	甕	(23.4)	(3.8)					10786/3	にぼい・黄褐色	外曲及内曲口縁底部に底付唇、外曲断面
80	SMB1	n区No.96	弥生土器	甕	(16.0)	(4.7)					10786/3	にぼい・黄褐色	
81	SMB1	bEDn347	弥生土器	甕	(17.4)	(2.6)					10785/2	灰黄褐色	外曲に底付唇
82	SMB1	XMB71297	弥生土器	甕	(22.0)	(2.8)					10784/2	灰黄褐色	外曲に底付唇、白色妙多点、外曲断面
83	SMB1	bEDn237	弥生土器	甕	(16.4)	(4.6)					10786/3	にぼい・黄褐色	
84	SMB1	XMB71298	弥生土器	甕	(28.0)	(3.7)					10786/2	灰黄色	
85	SMB1	XMB71296	弥生土器	甕小口	(30.0)	(3.3)					10785/2	灰黄褐色	外曲に底付唇
86	SMB1	XMB71297	弥生土器	甕	(13.0)	(2.7)					10786/2	灰黄褐色	外曲に底付唇
87	SMB1	XMB71297	弥生土器	甕	(14.0)	(2.7)					10787/2	にぼい・黄褐色	外曲に底付唇
88	SMB1	bEDn1	弥生土器	甕	(12.6)	(2.9)					10786/3	にぼい・黄褐色	外曲に底付唇、外曲断面
89	SMB1	bEDn1	弥生土器	甕	(15.1)	(4.7)					10787/4	にぼい・黄褐色	外曲が膨らむ、外曲断面
90	SMB1	XMB71298	弥生土器	甕	(15.0)	(2.8)					10788/3	にぼい・黄褐色	
91	SMB1	cEDn396	弥生土器	甕	(18.0)	(3.8)					10786/3	にぼい・黄褐色	内・外曲、断面に底付唇
92	SMB1	bEDn395	弥生土器	甕	(28.0)	(4.6)					10786/3	にぼい・黄褐色	自由曲・底付唇多点
93	SMB1	XMB71293	弥生土器	甕	(14.0)	(3.5)					10786/3	にぼい・黄褐色	外曲に底付唇
94	SMB1	bEDn1	弥生土器	甕	(16.0)	(2.5)					10786/3	にぼい・黄褐色	
95	SMB1	bEDn119	弥生土器	甕	(19.6)	(8.0)					10786/3	にぼい・黄褐色	外曲に底付唇、外曲断面
96	SMB1	dEDn442	弥生土器	甕	(24.6)	(7.3)					10787/4	にぼい・黄褐色	外曲に底付唇、外曲断面
97	SMB1	aEDn370, 661980-3	弥生土器	甕	(18.0)	(8.5)					10785/2	砂合褐色	内曲断面、口輪剥離、内外底付唇
98	SMB1	bEDn171	弥生土器	甕	(21.0)	(6.2)					10786/4	裸	
99	SMB1	bEDn644	弥生土器	甕	(11.0)	(9.0)					10787/2	灰黄褐色	外曲剥離
100	SMB1 - P01	SM011979/616	弥生土器	甕	(15.3)	(21.4)					10786/3	にぼい・黄褐色	内曲面削・削面、外曲剥離
101	SMB1	bEDn643	弥生土器	甕	(8.0)						10786/3	にぼい・黄褐色	内・外曲剥離
102	SMB1	A5801206	弥生土器	甕	(4.6)	8.0	19.6	10786/4	にぼい・黄褐色	内・外曲剥離、台付型の台脚			
103	SMB1	dEDn338	弥生土器	甕	(2.0)	5.9	3.8	10786/3	にぼい・黄褐色	内・外曲剥離、内・外底付唇			
104	SMB1	aEDn826	弥生土器	甕	(2.0)	5.7	3.8	10787/3	にぼい・黄褐色				
105	SMB1	bEDn280	弥生土器	甕	(3.0)	5.0	3.8	10785/3	にぼい・黄褐色	外底剥離、内・外曲剥離			
106	SMB1	1区No.950	弥生土器	甕小口	(3.0)	3.7	3.9	10786/3	にぼい・黄褐色	内・外曲剥離、外・内底付唇			
107	SMB1	bEDn34703	弥生土器	甕	(3.0)	4.3	4.8	10787/3	にぼい・黄褐色	外曲剥離			
108	SMB1	bEDn3777	弥生土器	甕	(3.0)	7.6	5.8	10786/3	にぼい・黄褐色	外曲剥離			
109	SMB1	YEDn 7312	弥生土器	甕	(2.0)	3.9	3.8	10786/3	にぼい・黄褐色	内・外剥離			
110	SMB1	1区No.950	弥生土器	甕	(3.0)	3.7	3.8	10787/3	にぼい・黄褐色	外曲剥離毛剥離、内・外曲剥離			
111	SMB1	bEDn491	弥生土器	甕	(2.0)	7.1	5.5	10786/2	灰黄褐色	内・外底付唇			
112	SMB1	bEDn643	弥生土器	甕	(4.0)	3.6	3.8	10786/3	にぼい・黄褐色	内・外底付唇、底削外底剥離			
113	SMB1	cEDn345	弥生土器	甕	(8.0)	6.0	5.5	10787/3	にぼい・黄褐色	内・外底付唇、外曲面削・削面、外曲面底付唇			
114	SMB1	XMB71293	弥生土器	甕	(6.0)	7.8	5.8	10786/3	にぼい・黄褐色	内・外底付唇・削面			
115	SMB1	bEDn3587298	十字縫	小型甕	(12.0)	(5.2)					10786/3	にぼい・黄褐色	
116	SMB1	cEDn548	土壺形	小底付	(10.0)	(7.2)					10787/3	にぼい・黄褐色	
117	SMB1	1区No.558	土壺形	小底付	(13.0)	(5.1)					10787/3	にぼい・黄褐色	内・外底付唇
118	SMB1	bEDn3470299	土壺形	小底付	(9.0)	(3.2)					10786/3	にぼい・黄褐色	内・外底付唇
119	SMB1	bEDn34716	土壺形	小底付	(1.7)	5.3	5.0	10787/3	にぼい・黄褐色	台階			
120	SMB1	105072909	土壺形	小底付	(3.0)	6.0	5.8	10787/3	にぼい・黄褐色	台階			
121	SMB1	bEDn647	弥生土器	甕	(4.4)	6.0	5.8	10786/2	灰黄褐色	茎葉外側剥離			
122	SMB1	cEDn317121	弥生土器	甕	(4.8)	(2.0)					10786/3	にぼい・黄褐色	コ蘆軸から内・外底化
123	SMB1	wEDn37396	弥生土器	甕	(2.0)			10787/3	内・外底付唇	外底剥離、底付			
124	SMB1	1区No.551	弥生土器	甕	(2.0)			10786/3	内・外底付唇	内・外底付唇、底付			
125	SMB1	dEDn828	土壺形	甕	(2.0)			498	内・外底付唇	外底剥離、底付			
126	SMB1	XMB712111	弥生土器	甕	(2.7)						10787/4	にぼい・黄褐色	
127	SMB1	cEDn547	土壺形	甕	(3.2)			10786/3	内・外底付唇	内・外底付唇、底付			
128	SMB1	fEDn390	弥生土器	甕	(19.0)	(3.0)					10786/2	にぼい・黄褐色	外曲口縁底部に削り凹溝、修理外側面に削り込み、内・外底付唇、口輪削離による基盤化
129	SMB1	bEDn347300	弥生土器	甕小底付	(2.0)						10786/2	灰黄褐色	内・外底付唇
130	SMB1	cEDn556	弥生土器	甕	(2.0)			5	10787/3	にぼい・黄褐色	内・外底付唇		
131	SMB1	dEDn828	土壺形	甕	(5.0)			5	10787/3	にぼい・黄褐色	内・外底付唇		
132	SMB1	bEDn641	土壺形	甕	(10.2)	(3.0)		10786/3	にぼい・黄褐色	内・外底付唇			
133	SMB1	dEDn537	弥生土器	甕	(9.3)	(5.9)		60%	10786/2	にぼい・黄褐色	内・外底付唇、底付		
134	SMB1	A5801250	弥生土器	甕	(3.7)			10786/4	にぼい・黄褐色				
135	SMB1	105072947	十字縫	甕	(4.2)			30%	10787/3	にぼい・黄褐色	脚部外底剥離、底付		
136	SMB1	cEDn515	土壺形	甕	(9.4)			60%	10787/3	にぼい・黄褐色	脚部外底剥離、底付		
137	SMB1	cEDn530	土壺形	甕	(3.8)			20%	10786/2	にぼい・黄褐色	脚部外底剥離、底付		
138	SMB1	bEDn631	弥生土器	甕合	(6.5)			30%	10786/2	灰黄褐色	外底剥離		
139	SMB1	fEDn396	弥生土器	甕合	(7.2)			30%	10786/2	にぼい・黄褐色	脚部外底剥離、底付		
140	SMB1	A58012312	土壺形	甕合	(4.5)			10%	10786/3	にぼい・黄褐色			

表4 遺物観察表（弥生～古墳時代の土器）

番号	遺 墓	地名 (第 1 号地名) 地番 (アーチ番)	堆 積	断 面	地盤 (1) 以降の 地盤層			地存率	色 調	備 考
					石室	土質	地質			
141	SX01	XST77311	弥生上層	土質	(6.0)			10%	1076/2 赤茶色 非焼毛	にじる青褐色 内外面刷毛、外側・本部内面黒化
142	SK01	dIICM6785	土質	森林	(7.2)			20%	1097/3 赤茶色 非焼毛	脚底外表面・新規内面刷毛、脚底内面刷毛、解剖穿孔15mm
143	SK01	eIICM6921	弥生上層	土質	(6.0)			45%	1098/3 赤茶色 非焼毛	脚底外表面刷毛、外側・本部内面黒化
144	SK01	IICM62441	土質	森林	(3.2)	(12.4)	5%	1096/2 赤茶色 非焼毛	にじる青褐色 脚底外表面刷毛、脚底内面刷毛	
145	SK01	IICM6312304	土質	森林	(3.7)	(14.0)	5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	にじる青褐色 脚底外表面刷毛、脚底内面刷毛	
146	SK01	bIICM6774	土質	森林	(4.0)	(12.5)	5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	にじる青褐色 脚底外表面刷毛、脚底内面刷毛	
147	SK01	cIICM6221	土質	森林	(6.0)	12.7	40%	1098/2 赤茶色 非焼毛	にじる青褐色 脚底外表面刷毛、脚底内面刷毛	
148	SK01	eIICM61040	土質	森林	(6.0)	11.3	60%	1098/3 赤茶色 非焼毛	にじる青褐色 脚底外表面刷毛	
149	SK01	XSM61312	土質	森林	(11.6)	(2.0)	5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	灰色	
150	SK01	aIICM6099312	土質	森林	(6.0)			10%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	外表面漆付近側面ヘタ削り
151	SK01	XSM61711	土質	森林	(1.1)			10%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	外表面漆付近側面ヘタ削り
152	SK01	XSM61712	土質	森林	(1.9)	(11.4)	20%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	灰色 底面ヘタ削	
153	SK01	eIICM6069	土質	森林	(1.6)	(10.6)	15%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	底面ヘタ削り後ナヂ	
154	SK01	bIICM6227	土質	森林	12.1	9.4	8.7	5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	底面ヘタ削り後ナヂ
155	SK01	XSM61712	土質	森林	(9.0)	(3.0)	5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	灰色 底面ヘタ削り後ナヂ	
156	SK01	XSM61712	土質	森林	(9.0)			5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	内面同心円溝てれ
157	SK01	XSM617106	土質	森林	(4.0)			5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	外表面平行帯、内面ナヂ
158	SK01	XSM61712	土質	森林	(5.0)			10%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	外表面平行帯に用打
159	SK01	XSM61712	土質	森林	(5.7)			5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	外表面平行帯
160	SK01	XST702296	土質	石口端	(28.0)	(4.1)	5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	褐色	
161	SK01	eIICM6902	土質	森林				100%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	片側3.0m、内面に斜面
162	SK01	eIICM6378	八重山	土質	(25.0)	(5.5)	5%	2.076/2 赤茶色 非焼毛	褐色	
163	SK01	XSM607206	越中鹿戸	土質	(11.2)	(2.0)	5%	動土: 1098/2 動土: 1097/1 赤茶色 非焼毛	動土: 1098/2 動土: 1097/1 赤茶色 非焼毛	
164	SK01	XST77411	越中鹿戸	火事		(6.0)	10%	動土: 2.076/2 動土: 2.076/3 赤茶色 非焼毛	にじる青褐色 地表色	
165	SK01	eIICM661	土質	砂質土	2.6	2.5	2.6	100%	1098/1 2.076/1 赤茶色 非焼毛	孔隙地、白色土粒多く含む
166	SK01	XSM617264	石器	砂土		(3.0)		2.076/1 赤茶色 非焼毛	泥炭	
167	SK01	XST77298	石器	砂石		(4.6)		2.077/3 赤茶色 粘土	粘土	
168	SK01	XST70206	金美製品	砂質		3.6		100%		

表 5 遺物観察表（弥生～江戸時代の遺物）

第IV章 総 括

小竹貝塚の遺跡範囲の南端を東西方向に横切る谷地形を検出した。谷地形は東から西に向かって傾斜しており、調査区の北東域の微高地に各時期の集落の主体が広がっているものと推測される。出土遺物から、小竹貝塚の主だった時期である縄文時代前期以外にも弥生時代終末期～古墳時代初頭の多数の土器を確認することができ、当該期に調査地周辺に集落があったことが判明した。（鹿島）

第 1 節 縄文時代

縄文時代の遺物は、谷地形 SX01 から弥生時代終末～古墳時代初頭にかけての多量の遺物に混じって出土しているが、これ以外は、SK04 と P16 から少量出土しているにとどまる。このことは、付近に縄文時代の集落が存在していたことを示すと共に、弥生終末～古墳時代の集落が形成される際に縄文時代の遺構が破壊され、遺物が谷に流れ込んだことを示唆する。

土器は、前期後葉の観ヶ森 I 式が主体を占めるほか、量は少ないものの、後期末の八日市新保式の可能性が高いものも出土している。石器は、定形的なものは磨石が最も多く、磨製石斧や石鎌、敲石も多く出土している。また、定型的なもの以外にも、多量の剝片や石核、石材と思われる礫なども出土しており、本地点付近で石器製作が行われていたと推定される。

これらのことから、本地点付近における縄文時代の人間活動は、前期後葉を中心とし、後期にも規模は小さなながら行われていたと言える。また、付近で行われた活動は、石鎌を用いた狩猟や磨石や敲石、磨製石斧を用いた活動を中心とし、石器製作も行われていた。

本遺跡は、これまでの県文化振興財団を中心とする調査で、前期中葉の廐乗場や前期後葉～末様の貝塚、前期後葉を中心とする居住域が検出されている（町田 2010, 2011）。今回報告した地点から出土した土器は、前期後葉を中心とし、先に見つかった居住域（富山県文化振興財団調査地点 A 地区）の年代とほぼ同様である（町田 2010）。また、石器については、磨石が多く出土している点で異なるが、その点を除けば、居住域や貝塚の状況と類似している（町田 2013）。そのため、今回の調査成果は、先に見つかった前期後葉を中心とする集落の居住域が本地点付近まで広がっていたことを示すだろう。

（納屋内）

第 2 節 弥生時代終末期～古墳時代初頭

弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器が大量に谷地形 SX01 に廐棄されている状態で出土した。その他の遺構は、当該期の上器が覆土中から出土する柱穴状のピットがみられるものの、建物配置とはならず、調査区外に集落の本体が存在していたようである。

出土した土器は細片資料が多く、壺形土器や壺形土器などの体部片が大量にあり個体数は多いと推測されるが、完全な形状に復元できるものは殆どない。一方で、高杯形土器や器台形土器など赤彩された土器も一定量みられた。これらについては熱を受けたものもあり、祭祀などに用いられた後、破損したものが廐棄されたようである。土器には、八町 II 遺跡にみられる布留系壺はみられず、いわゆる白江式土器を中心の時期で、若干前後する時期の土器も含まれていると推測される。北東に約 40 m ほどの地点の発掘調査では、本調査区の時期より遅い弥生時代後期前半の猫橋式土器が出土する溝跡を検出した（富山市教委 2013b）。

本遺跡の南に広がる台地上（標高約 20 ～ 30 m）には、弥生時代後期前半の方形周溝墓を有する吳羽モグラ池遺跡（小林 1995）や古墳時代前期前半とみられる吳羽三ツ塚古墳が築かれる（小黒 2004）。さらに台地の縁辺部には、弥生時代終末から古墳時代の遺物が出土する山守谷 I 遺跡、山守谷 II 遺跡の集落が所在する。このように、吳羽丘陵北西部の台地上には弥生時代後期～古墳時代前期にかけての墳墓・古墳や集落が所在する。小竹貝塚の弥生時代後期～古墳時代初頭の集落は、それらの北端の台地の縁辺部に広がる低湿地の微高地（標高約 2 m）に位置していることから、台地上に墳墓や古墳を築造した有力者と関連のある集団の一部が、低湿地での水田耕作などを営むために谷地形周辺の微高地に人々が居を構えていたと推測される。

第 3 節 古代以降

谷地形からは、奈良～平安時代の須恵器や鎌倉～室町時代の珠洲焼、八尾焼、江戸時代の越中瀬戸焼など古代～近世にかけての遺物が僅かに出土しているが、当該期に属する土坑や柱穴などの遺構は確認していない。

遺跡南の台地上には奈良～平安時代の掘立柱建物や竪穴建物を多数検出した吳羽小竹堤遺跡（富山市教委 1989）や平安時代の須恵器を焼成した小竹源平山窯跡が営まれることから、谷地形にみられた須恵器は、それら周辺の集落の人々が移動に伴って持参していたものが破損し、廐棄されるなどの二次的な要因で谷地形から出土したと推測できる。

（鹿島）

参考文献

- 石川県立埋蔵文化財センター 1986『漆町遺跡1』
- 小黒智久 2004「呉羽丘陵北西部における古墳の出現」『富山市の遺跡物語』富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 No.5
- 越坂一也 1987「4 第4群土器 蛭ヶ森式期」『石川県能都町 真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡調査団 pp.51-60
- 小島俊影 2008「蛭ヶ森式土器」『縄萱繩文土器』アム・プロモーション pp.298-303
- 小林高範 1995「呉羽モグラ池遺跡」『富山市考古資料館報』No.28 富山市考古資料館
- (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2014『富山市小竹貝塚の発掘調査成果』報道発表資料
- 酒井重洋 1990「越中における在地窯の諸問題」『中世北陸の在地窯』北陸中世土器研究会
- (財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2006『下老子笠川遺跡発掘調査報告書』第五分冊
- 鈴木道之助 1991『図録 石器入門事典 繩文』柏書房 pp.186
- 高橋浩二 2005「富山県における高地性集落の解体と古墳の出現」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
- 寺崎祐助 2011「越後の前期後半期土器の展望 一刈羽式を中心にー」『第24回縄文セミナー 縄文前期土器研究の現状と課題』縄文セミナーの会
- 富山県教育委員会 1972『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』
- 富山市教育委員会 1989『昭和63年度 富山市埋蔵文化財発掘調査概要』
- 富山市教育委員会 1994『史跡北代遺跡発掘調査概要』
- 富山市教育委員会 2004『富山市北代加茂下Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2008『富山市八町Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2009『富山市内遺跡発掘調査概要IV—水橋上砂子坂遺跡・小竹貝塚一』
- 富山市教育委員会 2013『富山市遺跡地図』
- 富山市教育委員会 2013 a『富山市豊田大塚・中吉原遺跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2013 b『富山市小竹貝塚発掘調査報告書』
- 中村由克 2013「小竹貝塚の石器の石材利用」『シンポジウム 「富山の石材と玉髓・碧玉」 予稿集』石器石材のつどい・富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 pp.6-10
- 婦中町教育委員会 2003『富山県婦中町鍛冶町遺跡発掘調査報告』
- 藤井昭二 1964「地質からみた射水平野の形成と放生津潟の変遷」『放生津潟の地学的研究』
- 藤井昭二 2000『大地の記憶—富山の自然史』桂書房
- 町田賢一 2010「(2)本調査 ③小竹貝塚」『埋蔵文化財年報 平成21年度』, 富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所, pp.20-23
- 町田賢一 2011「(2)本調査 ①小竹貝塚」『埋蔵文化財年報 平成22年度』, 富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所, pp.11-14
- 町田賢一 2013「小竹貝塚の調査と石器の概要」『シンポジウム 「富山の石材と玉髓・碧玉」 予稿集』, 石器石材のつどい・富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, pp.1-5
- 八尾町教育委員会 1985『富山県八尾町長山遺跡・京ヶ峰古窯跡』
- 山内賢一・林寺巖州・小林高範・古川知明 1993「小竹貝塚出土の遺物について」『富山市考古資料館紀要』第13号 富山市考古資料館
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館



調査区北壁土層堆積状況（南から）



遺構検出状況（東から）



調査区東壁土層堆積状況（南西から）



SX02（東から）



P11 土層断面（南から）



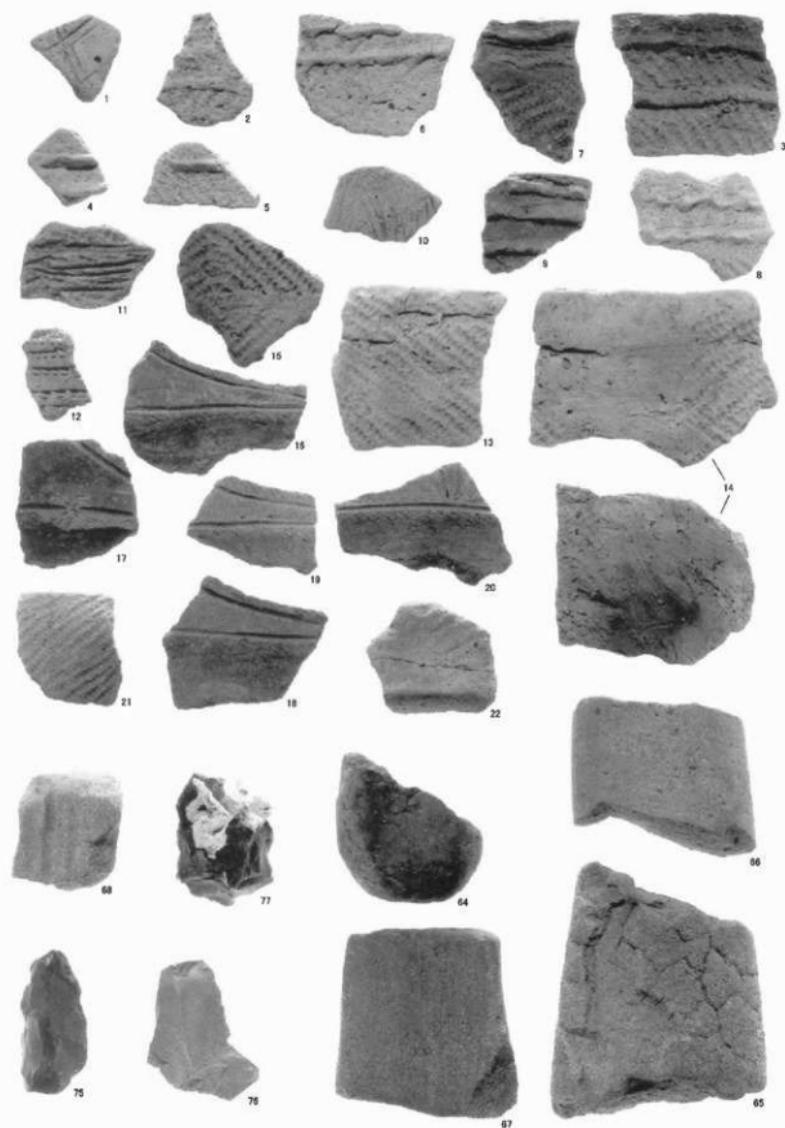
遺物出土状況（石器）



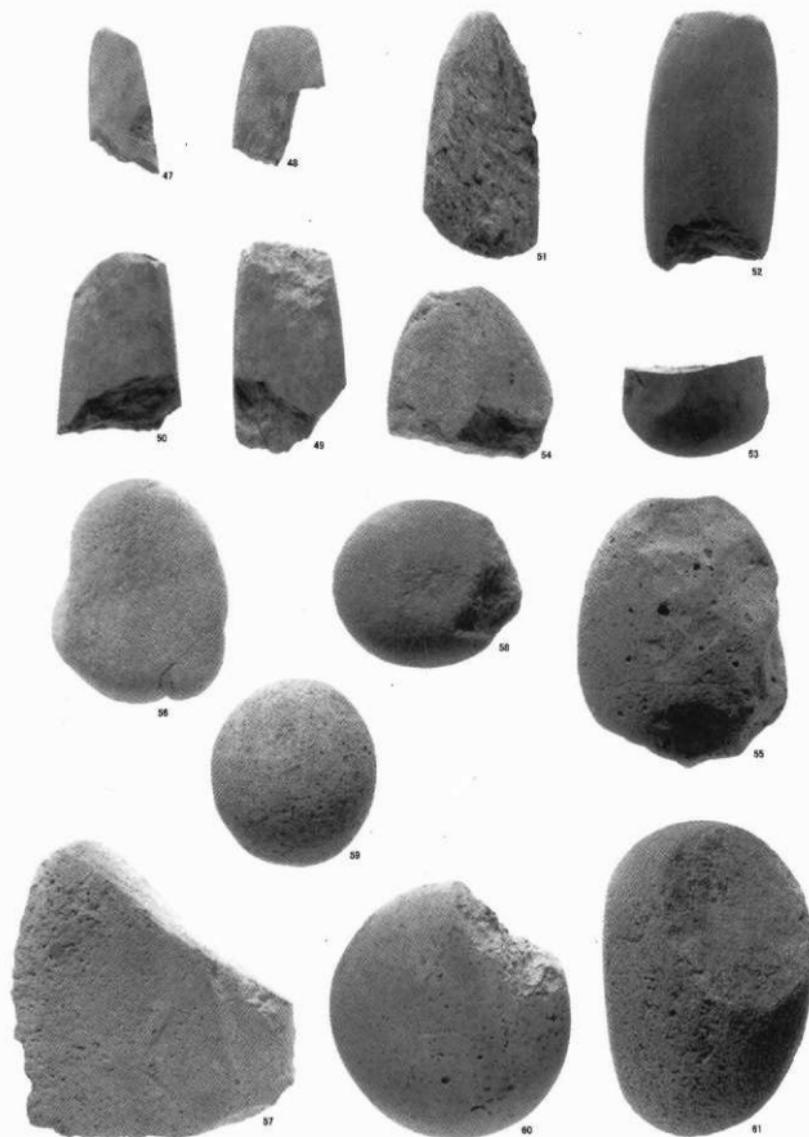
遺物出土状況（石器）



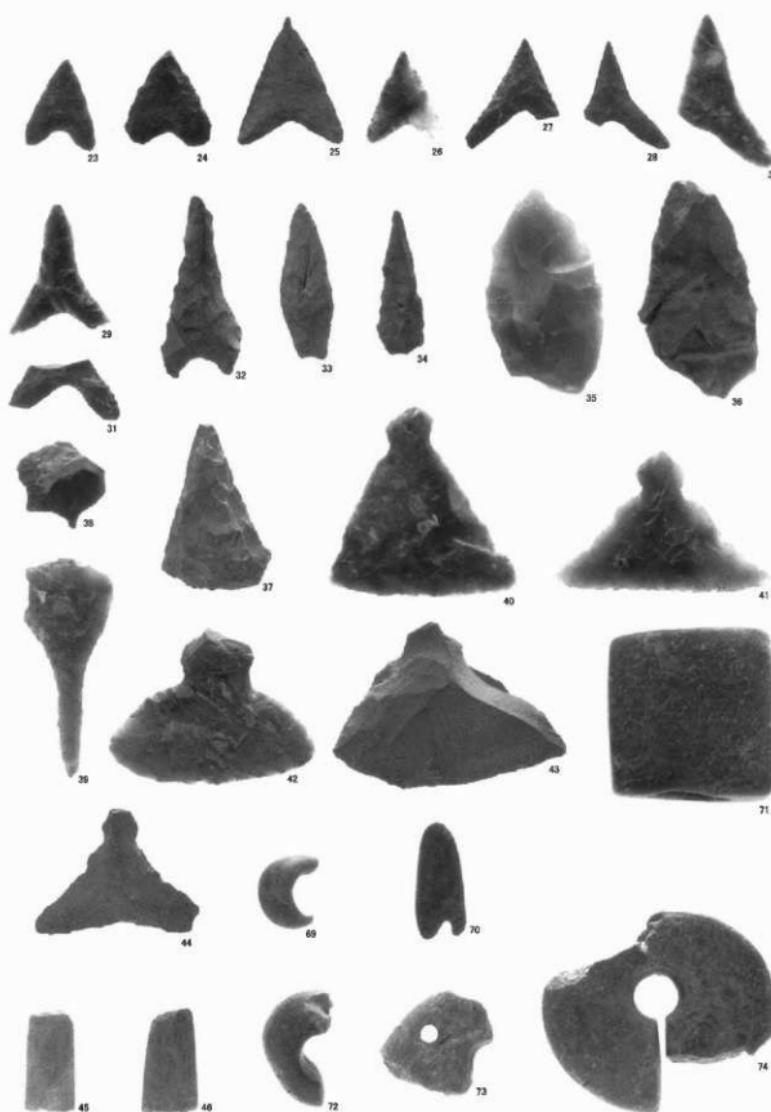
遺物出土状況（弥生土器）



縄文時代の土器・石器（約1／2）



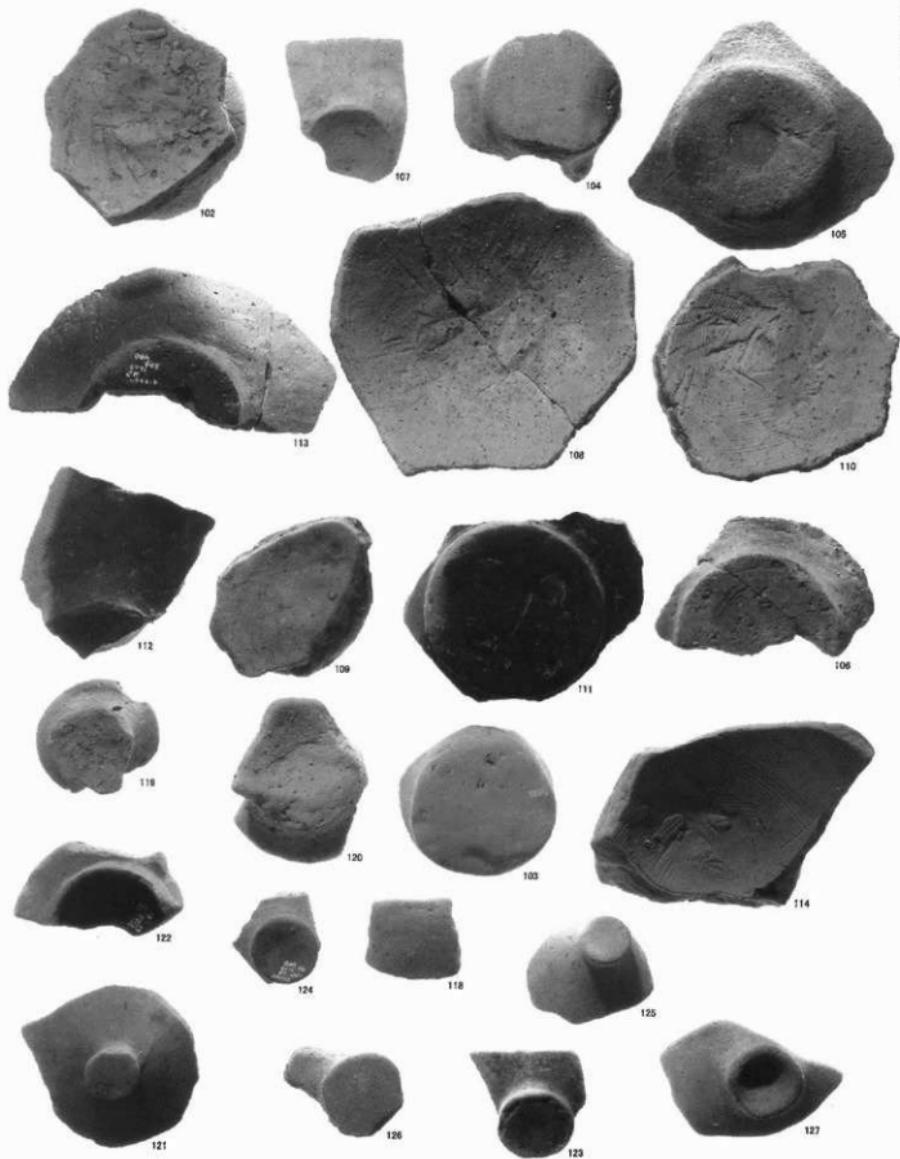
縄文時代の石器（約1／2）



縄文時代の石器（約1／1）



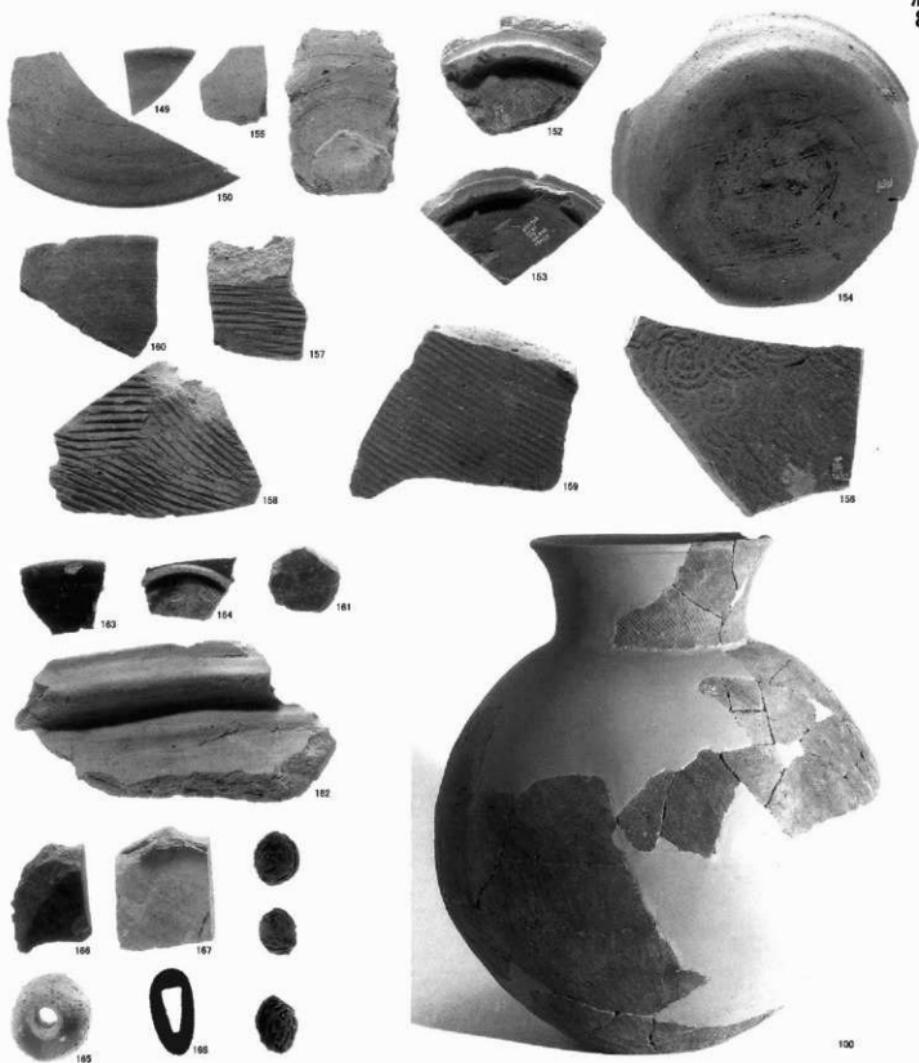
弥生～古墳時代の土器（約1／2）



弥生～古墳時代の土器 (約 1/2)



弥生～古墳時代の土器（約1／2）



弥生～江戸時代の遺物 (100は約1/3, その他は約1/2)

報 告 書 抄 錄

富山市埋蔵文化財調査報告 62

と やは し ない い せき
富山市内遺跡発掘調査概要XII
—小竹貝塚—

発行日：平成 26（2014）年 3月 31 日

発 行：富山市教育委員会

編 集：富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091

富山市愛宕町 1 - 2 - 24

Tel : 076-442-4246 Fax : 076-442-5810

Email : maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印 刷：中央印刷株式会社

